

講義名： 介護倫理

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
佐藤 隆夫(専任教員)		佐藤	開講時期	前期	全回数	15(30時間)
介護福祉士として、福祉施設で5年の実務経験					単位数	2
【概要】 「人」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護における倫理的課題について対応できる基礎的能力を養う。						
【学習目標】 尊厳の内容を具体化していく過程をとおして、介護を必要としている方の尊厳を守ることの意義や配慮すべきことを同じ人間として理解する。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	倫理学を学ぶ目的と意義				講義	佐藤
2	介護倫理の基礎	自己決定と意思能力 事例1 「私は120歳まで生きたいわ」			講義	佐藤
3	日常ケアの介護倫理(1)	転倒と拘束:倫理4原則の衝突 事例2 「縛らないでくれ！わしは犬ではない」			講義	佐藤
4	日常ケアの介護倫理(2)	食事・内服の拒否 事例3 「どうか、もう一口だけでも食べて下さい」			講義	佐藤
5	日常ケアの介護倫理(3)	リスクマネジメント 事例4 施設内での転倒事故			講義	佐藤
6	日常ケアの介護倫理(4)	虐待と守秘義務 事例5 「虐待の疑いにどうすればいいの」			講義	佐藤
7	日常ケアの介護倫理(5)	介護現場における個人情報保護 事例6 「施設での個人情報の扱い」			講義	佐藤
8	日常ケアの介護倫理(6)	介護現場における個人情報保護 事例7・8 施設と病院間での個人情報の扱い①②			講義	佐藤
9	日常ケアの介護倫理(7)	介護者の労働環境 事例9 介護従事者の労働荷重			講義	佐藤
10	終末期のケアの介護倫理	終末期ケア 事例10 「早くお父さんにお迎えに来てほしいの」			講義	佐藤
11	介護倫理の実践(1)	倫理コンサルテーションの実際 事例11 「PEG実施に関する倫理コンサルテーション」			講義	佐藤
12	介護倫理の実践(2)	介護事故の裁判外紛争解決 事例12 車椅子からの転倒と骨折			講義	佐藤
13	介護倫理の実践(3)	事前指示書 事例13 事前指示によって、家族内の意思疎通が改善したケース①②			講義	佐藤
14	まとめ				講義	佐藤
15	評価				試験	佐藤
【教科書】	「高齢者ケアにおける介護倫理」 医歯薬出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】 試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合して評価する。			【履修上の注意点】 提出期限厳守			

講義名： 人間関係論

【担当教員】 高梨 敦子 スクールカウンセラー	【責任教員】 佐藤	対象学科 開講時期	介護福祉科 前期	学年 全回数 単位数	1 15(30時間) 2
-------------------------------	--------------	--------------	-------------	------------------	--------------------

【概要】

人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。また、対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。

【学習目標】

人権思想・福祉理念の歴史的変遷を理解し、人間の尊厳・人権思想及び権利擁護の考え方を養うとともに、人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する。また、人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解する。

回数	学習の主題	学習課題	方法	担当教員
1	第1章 人間の尊厳と自立 第1節 人間の尊厳と人権・福祉理念(1)	人間の尊厳と利用者主体	講義	高梨
		人権思想の潮流とその具現化		
2	第1節 人間の尊厳と人権・福祉理念(2)	人権や尊厳に関する日本の諸規定	講義	高梨
		社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷①		
3	第1節 人間の尊厳と人権・福祉理念(3)	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷①	講義	高梨
		人権尊重と権利擁護		
4	第2節 自立の在り方(1)	自立の概念の多様性	講義	高梨
		自立とは		
5	第2節 自立の在り方(2)	介護を必要とする人々の自立と自立支援	講義	高梨
		介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性		
6	第2章 人間関係とコミュニケーション 第1節 人間と人間関係(1)	人間らしさのはじまり	講義	高梨
		自分と他者の理解		
7	第1節 人間と人間関係(2)	発達心理学からみた人間関係	講義	高梨
		社会心理学からみた人間関係		
8	第1節 人間と人間関係(3)	人間関係とストレス	講義	高梨
9	第2節 対人関係におけるコミュニケーション(1)	コミュニケーションの概念	講義	高梨
		コミュニケーションの基本構造		
10	第2節 対人関係におけるコミュニケーション(2)	コミュニケーションの手段	講義	高梨
11	第3節 対人援助関係におけるコミュニケーション(1)	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション	講義	高梨
		対人援助における基本的態度		
12	第3節 対人援助関係におけるコミュニケーション(2)	援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則	講義	高梨
13	第4節 組織におけるコミュニケーション(1)	組織の条件とコミュニケーションの特徴	講義	高梨
		組織における情報の流れ		
14	第4節 組織におけるコミュニケーション(2)	組織において求められるコミュニケーション	講義	高梨
15	評価	試験	試験	高梨

【教科書】

最新・介護福祉士養成講座 1「人間の理解」 中央法規出版株式会社

【参考書】

【評価方法】

試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合して評価する。

【履修上の注意点】

提出期限厳守

講義名： 社会福祉概論 I

【担当教員】 高橋 望		【責任教員】 佐藤	対象学科 介護福祉科	学年 後期	1
社会福祉士として、病院で5年の実務経験			開講時期 後期	全回数 単位数	8(15時間) 1
【概要】 個人や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える。					
【学習目標】 個人・家族・地域・社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と社会のかかわりや自助・互助・共助・公助の関係について理解する。					
回数	学習の主題	学習課題		方法	担当教員
1	第1章 社会と生活のしくみ 第1節 生活を幅広くとらえる	「人間」ととらえる複合的視点、複合的視点に関する学説 「社会生活」のメカニズム		講義	高橋
2	第2節 生活の基本機能	生活の多様性をとらえる視点、「家族」と「家庭」の違い 家庭機能の特徴		講義	高橋
3	第3節 ライフスタイルの変化	生活と働き方の変化 少子高齢化と健康寿命		講義	高橋
4	第4節 家族の機能と役割	家族の概念とその変容、家族の構造や形態 家族の機能とその変化、家族観の多様化		講義	高橋
5	第5節 社会・組織の機能と役割	社会・組織の概念、社会・組織の機能と役割 グループ支援、組織化、エンパワメント		講義	高橋
6	第6節 地域・地域社会	地域・地域社会の概念、産業化・都市化、過疎化 自助・互助・共助・公助		講義	高橋
7	第7節 地域社会における生活支援	地域社会の変化 地域の集団、組織による生活支援、演習1-1、1-2		講義	高橋
8	評価	試験		試験	高橋
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
【教科書】	最新・介護福祉士養成講座 2「社会の理解」 中央法規出版株式会社				
【参考書】					
【評価方法】 試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合して評価する。			【履修上の注意点】 提出期限厳守		

講義名： 社会福祉概論Ⅱ

【担当教員】 三津谷 若子		【責任教員】 佐藤	対象学科 介護福祉科	介護福祉科	学年 2	
介護福祉士として19年、社会福祉士として8年、福祉施設で実務経験			開講時期 前期		全回数 8(15時間)	
					単位数 1	
【概要】 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する。						
【学習目標】 人間の尊厳と自立に関わる権利擁護や個人情報保護など、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解する。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	第6章介護実践に関連する諸制度 第1節個人の権利を守る制度・施策(1)	虐待防止に関する制度・施策 サービス利用に関する制度・施策			講義	三津谷
2	第1節個人の権利を守る制度・施策(2)	消費者保護に関する制度・施策 その他の個人の権利を守る制度・施策			講義	三津谷
3	第2節保健医療に関する制度・施策(1)	保健医療に関する制度・施策 生活習慣病の予防・対策に関する制度・施策			講義	三津谷
4	第2節保健医療に関する制度・施策(2)	結核・感染症の予防・対策に関する制度・施策 HIV／エイズの予防・対策に関する制度・施策			講義	三津谷
5	第3節貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策	生活保護法 生活困窮者自立支援法 その他			講義	三津谷
6	第4節地域生活を支援する制度・施策(1)	就労支援・雇用促進に関する制度・施策 住生活を支援する制度・施策			講義	三津谷
7	第4節地域生活を支援する制度・施策(2) 演習	自殺を予防する制度・施策 その他			講義	三津谷
8	評価				試験	三津谷
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
【教科書】	最新・介護福祉士養成講座 2「社会の理解」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】	試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合して評価する。			【履修上の注意点】 提出期限厳守		

講義名：法とくらし

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	2
山田 忠一		佐 藤	開講時期	後期	全回数	15(30時間)
大学法学部卒、事務職					単位数	2
【概要】 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。また、高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する。						
【学習目標】 地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度や施策を理解する。また、障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容を理解し、障害者福祉の現状と課題を捉える。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	第2章 地域共生社会の実現に向けた制度や施策第1節 地域福祉の発展(1)	地域福祉の理念			講義	山田
		地域福祉の歴史的展開				
2	第1節 地域福祉の発展(2)	地域福祉の充実			講義	山田
		災害と地域社会				
3	第2節 地域共生社会(1)	地域共生社会をめざす社会的背景			講義	山田
		地域共生社会の理念				
4	第2節 地域共生社会(2)	地域共生社会の実現に向けた取り組み			講義	山田
5	第3節 地域包括ケア	地域包括ケアの理念			講義	山田
		地域包括ケアシステム				
6	第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援法第1節 障害者保健福祉の動向(1)	障害者福祉の現状			講義	山田
		障害者福祉の歴史				
7	第1節 障害者保健福祉の動向(2)	障害者福祉の動向			講義	山田
8	第2節 障害者保健福祉に関連する法体系(1)	障害者保健福祉の法律			講義	山田
		障害者の法的定義				
9	第2節 障害者保健福祉に関連する法体系(2)	障害児に対する支援制度			講義	山田
10	第3節 障害者総合支援制度(1)	障害者総合支援制度創設の背景および目的			講義	山田
		市町村、都道府県、国の役割				
11	第3節 障害者総合支援制度(2)	自立支援給付と地域生活支援事業			講義	山田
		財源と利用者負担				
12	第3節 障害者総合支援制度(3)	障害福祉サービスの種類と内容、利用手続き			講義	山田
		障害支援区分の認定				
13	第3節 障害者総合支援制度(4)	協議会と基幹相談支援センター			講義	山田
		障害者総合支援制度における相談支援事業と相談支援専門員				
14	第3節 障害者総合支援制度(5)	障害児を支える障害者総合支援制度			講義	山田
		演習				
15	評価				試験	山田
【教科書】 最新・介護福祉士養成講座 2「社会の理解」 中央法規出版株式会社						
【参考書】						
【評価方法】 試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合して評価する。				【履修上の注意点】 提出期限厳守		

講義名 : 教育学

【担当教員】	【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	2
木村 秀	佐藤	開講時期	後期	全回数	15(30時間)
元高校教師				単位数	2
【概要】 人間の在り方、生き方を考えることにより、介護福祉士としての人格陶冶に資する。					
【学習目標】 論語の章句をとおして、どのように生きるべきかについて考える。					
回数	学習の主題	学習課題		方法	担当教員
1	学ぶ楽しさ	學而時習之～、温故知新、知之者～ 巧言令色～、徳不孤～		講義	木村
2	人の姿	仁遠乎～、「恕」、訥言敏行、付和雷同、 君子喩於義～、君子成人美～、		講義	木村
3	毎日の過ごし方	人の為に謀りて、人の己を知らざるを憂へず～、 過不改～、性相近きなり～、		講義	木村
4	人の道	利に放りて行えば～、躬自ら厚くして～、 其の身正しければ～、		講義	木村
5	学ぶ	三人行えば～、学は及ばざるが如くするも～、 之を如何と言わざるもの～、之を知ると為し～、		講義	木村
6	学ぶ・考える	学びて思わざれば～、吾嘗て終日食らわず～ 人にして遠き慮りなければ～、		講義	木村
7	友との交わり	礼の和を用て貴しと為すは～、貧しくして諂うことなく～、 賢を見ては～、諒を友とし～、		講義	木村
8	目指したい行動	孟武伯孝を問う～、子貢君子を問う～。 詩に興り礼に立ち～、知者は惑わず～、		講義	木村
9	周りの人を大切に	剛毅木訥は～、苟しくも仁に～、 博く学びて篤く志し～、		講義	木村
10	人の価値	君子重からざれば～、過ちて改めざる～、 小人の過ちは～、其の以す所を見、其の由る所を～、		講義	木村
11	信の勇氣	君子は器ならず。異端を政むるは斯れ害のみ。 人にして信無くんば～、其の鬼に非ずして～、		講義	木村
12	心からの礼	人にして仁ならずんば～、礼は其の奢れんよりは～、 君に事うるに礼を尽くせば～、		講義	木村
13	嘗	約を以て之を失う者は～、三省、 人の己を知らざるを患えず～、		講義	木村
14	度量の広い人	曾子曰く、能を以て不能を問い～ 士は以て弘毅ならざるべからず～、		講義	木村
15	中庸	誰か能く出するに戸に～、中庸の徳たるや～、 過ぎたるは猶は及ばざるが～、		講義	木村
【教科書】 自作教材(学習課題については、実態に応じて変更する。)					
【参考書】 自作資料					
【評価方法】 履修態度及び課題により総合的に評価する。			【履修上の注意点】 提出物の完全提出		

講義名：現代社会

【担当教員】	【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
佐々木 篤 信	佐 藤	開講時期	前期	全回数	15(30時間)
大学名誉教授				単位数	2

【概要】

複雑な現代社会を生きてゆくうえにおいて、日頃何気なく見過ごしたり、当たり前と思っている現象に注目し、自分や世の中の動きを違った視点から考えてみることは今後社会人として重要な資質の一つである。そこから、自分の存在・人間関係・集団形成・社会制度形成などへの理解を深め、社会的思考を養う。

【学習目標】

統計・グラフ・資料・写真・略年表等活用し、問題に対して多様な角度から考察し、自分の考えを論理的に表現する能力を身につける。

回数	学習の主題	学習課題	方法	担当教員
1	行為の分析	現代社会を学ぶ目的と意義	講義	佐々木
		意味と相互主観生		
2	行為の分析	アイデンティティ	講義	佐々木
3	行為の分析	スティグマ	講義	佐々木
4	行為の分析	正常と異常	講義	佐々木
		予言の自己成就		
5	行為の分析	社会構築主義	講義	佐々木
		レポート		
6	秩序の解説	ジェンダー	講義	佐々木
7	秩序の解説	規範と制度	講義	佐々木
8	秩序の解説	コミュニケーションの自己準拠	講義	佐々木
		社会の中の権力		
9	秩序の解説	不平等と正義	講義	佐々木
		レポート		
10	社会の構想	共同体	講義	佐々木
		家族に潜む問題		
11	社会の構想	国家と市民社会	講義	佐々木
12	社会の構想	移民と国民国家	講義	佐々木
13	社会の構想	グローバル化と公共圏	講義	佐々木
		ユートピアと想像力		
14	社会の構想	現代社会における諸問題	講義	佐々木
15	評価	試験	試験	佐々木

【教科書】

友枝敏雄他著 新版「社会学のエッセンス」有斐閣アルマ 株式会社有斐閣

【参考書】

【評価方法】

試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合して評価する。

【履修上の注意点】

提出期限厳守

講義名： 社会保障関連制度論

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	2
三津谷 若子		佐藤	開講時期	後期	全回数	15(30時間)
介護福祉士として19年、社会福祉士として8年、福祉施設で実務経験					単位数	2
【概要】 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。また、高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する。						
【学習目標】 社会保障制度の基本的な考え方としくみを理解するとともに、社会保障の現状と課題を捉える。また、障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容を理解し、障害者福祉の現状と課題を捉える。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	第3章 社会保障制度 第1節 社会保障の基本的な考え方(1)	社会保障のイメージをつかむ			講義	三津谷
		社会保障の意義と役割				
2	第1節 社会保障の基本的な考え方(2)	社会保障の目的と機能			講義	三津谷
		ライフサイクルからみた社会保障				
3	第2節 日本の社会保障制度の発達(1)	社会保障制度の歴史を学ぶ意義、日本国憲法と社会保障			講義	三津谷
		戦後社会と社会保障の基盤整備				
4	第2節 日本の社会保障制度の発達(2)	国民皆保険・皆年金の確立、社会保障の拡充(福祉六法)			講義	三津谷
		社会保障の見直し				
5	第2節 日本の社会保障制度の発達(3)	介護保険と福祉の考え方の変化			講義	三津谷
		社会保障改革				
6	第3節 日本の社会保障制度のしくみ(1)	社会保障を支えるもの、実施体制、社会保障のしくみ			講義	三津谷
		社会保障制度の体系、年金保険				
7	第3節 日本の社会保障制度のしくみ(2)	医療保険、介護保険			講義	三津谷
		雇用保険と労働者災害補償保険、各種社会扶助				
8	第4節 現代社会と社会保障制度(1)	少子高齢化の進行と社会保障			講義	三津谷
		財政問題と社会保障				
9	第4節 現代社会と社会保障制度(2)	社会保障における給付と負担の関係			講義	三津谷
		持続可能な社会保障制度への道				
10	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度 第1節 高齢者保健福祉の動向(1)	高齢者保健福祉に関する歴史			講義	三津谷
		人口の高齢化と高齢者保健福祉				
11	第1節 高齢者保健福祉の動向(2)	高齢者の健康保持と社会参加			講義	三津谷
		高齢者保健福祉における今日的課題と展望				
12	第2節 高齢者保健福祉に関連する法体系	高齢社会対策基本法、老人福祉法			講義	三津谷
		高齢者の医療の確保に関する法律				
13	第3節 介護保険制度(1)	介護保険制度創設の背景と目的			講義	三津谷
		制度のしくみと基本的理解				
14	第3節 介護保険制度(2)	介護保険制度における組織、団体の役割、介護支援専門員の役割			講義	三津谷
		介護保険制度の動向				
15	評価				試験	三津谷
【教科書】	最新・介護福祉士養成講座 2「社会の理解」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】 試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合して評価する。			【履修上の注意点】 提出期限厳守			

講義名：くらしと文化

	【担当教員】 武藤 みや子 元高校教師	【責任教員】 佐藤	対象学科 開講時期	介護福祉科 前期	学年 全回数 単位数	1 15(30時間) 2
【概要】 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。						
【学習目標】 住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。また、生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	第2章 居住環境の整備 第1節 住まいの役割と機能	住まいの役割と機能 家族と生活空間			講義	武藤
2	第2節 生活空間	人と空間 加齢と生活空間			講義	武藤
3	第3節 快適な室内環境(1)	生活環境と室内環境 室内気候の調整			講義	武藤
4	第3節 快適な室内環境(2)	明るさの調整、音環境の調整 住まいの維持・管理			講義	武藤
5	第4節 安全に暮らすための生活環境	日常安全 災害に対する備え			講義	武藤
6	第5節 高齢者・障害者の住まい	高齢者の住まい、障害者の住まい 住まいと地域			講義	武藤
7	第6節 居住環境の整備における多職種との連携(1)	居住環境の整備における多職種連携の必要性 多職種の役割と介護福祉職との連携			講義	武藤
8	第6節 居住環境の整備における多職種との連携(2)	居住環境の整備における多職種連携の実際 演習			講義	武藤
9	第5章 自立に向けた家事の介護 第1節 自立した家事とは(1)	自立生活を支える家事 自立した家事の一連の流れ			講義	武藤
10	第1節 自立した家事とは(2)	自立に向けた家事の介護をするために介護福祉職がすべきこと			講義	武藤
11	第2節 自立に向けた家事の介護(1)	調理の介護 洗濯			講義	武藤
12	第2節 自立に向けた家事の介護(2)	そうじ・ごみ捨ての介助 裁縫－衣類の補修			講義	武藤
13	第2節 自立に向けた家事の介護(3)	衣類・寝具の衛生管理、買い物 家庭経営、家計の管理			講義	武藤
14	第3節 家事の介護における多職種との連携	家事の介護における多職種連携の必要性 在宅の場合、施設の場合			講義	武藤
15	評価				試験	武藤
【教科書】	最新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」					
【参考書】						
【評価方法】	出席状況・学習態度・レポート・試験などを総合し評価する			【履修上の注意点】 ・課題の提出期限を厳守すること ・実習室に入る場合はユニホームを着用し身だしなみを整えていること ・A4版レポート用紙及び原稿用紙(横書き)を携行すること		

講義名：介護の基本 I (1/2)

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
佐藤 隆夫(専任教員)		鈴木	開講時期	通年	全回数	30(60時間)
介護福祉士として福祉施設で5年の実務経験					単位数	2
【概要】 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。						
【学習目標】 介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題としてとらえ、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を習得する。また、地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能、さらには社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定等について習得する。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	介護の成り立ち(1)	介護の成り立ち①			講義	佐藤
2	介護の成り立ち(2)	介護の成り立ち②			講義	佐藤
3	介護の成り立ち(3)	専門職による「介護」が誕生した社会的な背景①			講義	佐藤
4	介護の成り立ち(4)	専門職による「介護」が誕生した社会的な背景②			講義	佐藤
5	介護の概念の変遷(1)	1970年代①－介護サービスの量的拡充がはかられる			講義	佐藤
6	介護の概念の変遷(2)	1980年代①－介護サービスの質的拡充がはかられる			講義	佐藤
7	介護の概念の変遷(3)	1980年代②			講義	佐藤
8	介護の概念の変遷(4)	1990年代①－今日の介護実践の基本的な概念の整理			講義	佐藤
9	介護の概念の変遷(5)	1990年代②			講義	佐藤
10	介護の概念の変遷(6)	2000年以降①－基本的概念の枠組みの整備と介護概念の拡充			講義	佐藤
11	介護の概念の変遷(7)	2000年以降②			講義	佐藤
12	介護福祉の基本概念(1)	介護福祉の理念			講義	佐藤
13	介護福祉の基本概念(2)	尊厳を支える介護			講義	佐藤
14	介護福祉の基本概念(3)	自立を支える介護			講義	佐藤
15	評価				試験	佐藤
【教科書】	最新・介護福祉士養成講座 3「介護の基本 I」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】 出席状況・学習態度・レポート・試験などを総合し評価する			【履修上の注意点】 ・課題の提出期限を厳守すること ・A4版のレポート用紙及び原稿用紙(横書き)を携行すること			

講義名：介護の基本 I (2/2)

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
佐藤 隆夫(専任教員)		鈴木	開講時期	通年	全回数	30(60時間)
介護福祉士として福祉施設で5年の実務経験					単位数	2
【概要】 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。						
【学習目標】 介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題としてとらえ、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を習得する。また、地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能、さらには社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定等について習得する。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	介護福祉士の活動の場と役割(1)	地域包括ケアシステム			講義	佐藤
2	介護福祉士の活動の場と役割(2)	介護予防			講義	佐藤
3	介護福祉士の活動の場と役割(3)	医療的ケア			講義	佐藤
4	介護福祉士の活動の場と役割(4)	人生最終段階の支援			講義	佐藤
5	介護福祉士の活動の場と役割(5)	災害時の支援			講義	佐藤
6	社会福祉士及び介護福祉士法(1)	社会福祉士及び介護福祉士法			講義	佐藤
7	社会福祉士及び介護福祉士法(2)	社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定			講義	佐藤
8	介護福祉士養成カリキュラムの変遷(1)	介護福祉士養成教育の始まり			講義	佐藤
9	介護福祉士養成カリキュラムの変遷(2)	社会福祉専門職に求められる役割の拡大			講義	佐藤
10	介護福祉士養成カリキュラムの変遷(3)	介護福祉現場での中心的役割としての介護福祉士への期待			講義	佐藤
11	介護福祉士養成カリキュラムの変遷(4)	チームリーダーとしての介護福祉士への期待			講義	佐藤
12	介護福祉士を支える団体(1)	日本介護福祉士会			講義	佐藤
13	介護福祉士を支える団体(2)	日本介護福祉士養成施設協会			講義	佐藤
14	介護福祉士を支える団体(3)	日本介護福祉学会、日本介護福祉教育学会			講義	佐藤
15	評価	試験			試験	佐藤
【教科書】	最新・介護福祉士養成講座 3「介護の基本 I」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】	出席状況・学習態度・レポート・試験などを総合し評価する			【履修上の注意点】 ・課題の提出期限を厳守すること ・A4版のレポート用紙及び原稿用紙(横書き)を携行すること		

講義名：介護の基本 II(1/2)

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
佐藤 隆夫(専任教員)		鈴木	開講時期	通年	全回数	30(60時間)
介護福祉士として福祉施設で5年の実務経験					単位数	2
【概要】 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。						
【学習目標】 介護福祉士の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を身に付けると共に、ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法について習得する。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	介護福祉士の倫理 介護福祉士の倫理(1)	介護実践における倫理			講義	佐藤
2	介護福祉士の倫理(2)	倫理判断が必要な場面における介護福祉士の対応			講義	佐藤
3	日本介護福祉士会の倫理綱領	日本介護福祉士会倫理綱領			講義	佐藤
4	自立に向けた介護福祉のあり方 自立支援の考え方(1)	自立支援とは			講義	佐藤
5	自立支援の考え方(2)	自立支援とエンパワメントの考え方 自立支援とICFの考え方			講義	佐藤
6	ICFの考え方	介護におけるICFのとらえ方			講義	佐藤
7	自立支援とリハビリテーション(1)	リハビリテーションとは リハビリテーションの実際			講義	佐藤
8	自立支援とリハビリテーション(2)	リハビリテーションを考えるうえでの障害の理解と評価 リハビリテーションのなかでの自立のとらえ方、介護福祉士の役割			講義	佐藤
9	自立支援と介護予防(1)	介護予防の概要			講義	佐藤
10	自立支援と介護予防(2)	介護予防の種類と特徴 高齢者の身体特性と介護予防			講義	佐藤
11	自立支援と介護予防(3)	介護予防の実際			講義	佐藤
12	自立支援と介護予防(4)	自立支援と介護予防 介護予防における介護福祉士の役割			講義	佐藤
13	介護福祉を必要とする人の理解 私たちの生活の理解(1)	生活とは何か			講義	佐藤
14	私たちの生活の理解(2)	生活にとって大切な要素 生活の特性			講義	佐藤
15	評価	試験			試験	佐藤
【教科書】	新・介護福祉士養成講座 3「介護の基本Ⅰ」、4「介護の基本Ⅱ」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】 ・出席状況・学習態度・レポート・試験などを総合し評価する		【履修上の注意点】 ・課題の提出期限を厳守すること ・A4版のレポート用紙及び原稿用紙(横書き)を携行すること				

講義名 : 介護の基本Ⅱ(2/2)

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
佐藤 隆夫(専任教員)		鈴木	開講時期	通年	全回数	30(60時間)
介護福祉士として福祉施設で5年の実務経験					単位数	2
【概要】 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。						
【学習目標】 介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、フォーマルおよびインフォーマルな支援、地域連携について事例を用いて学びを深める。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
16	介護福祉を必要とする人たちの暮らし(1)	介護福祉を必要とする高齢者の暮らし			講義	佐藤
17	介護福祉を必要とする人たちの暮らし(2)	介護福祉を必要とする障害者の暮らし			講義	佐藤
18	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解(1)	「その人らしさ」とは何か 「その人らしさ」の背景			講義	佐藤
19	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解(2)	「その人らしさ」の介護福祉における活用 「生活ニーズ」の理解			講義	佐藤
20	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解(3)	個々の生活ニーズにどこまでこたえるか			講義	佐藤
21	生活のしづらさの理解とその支援(1)	生活のしづらさについて考える 日常生活から考える「生活のしづらさ」			講義	佐藤
22	生活のしづらさの理解とその支援(2)	「生活のしづらさ」に対する支援 家族介護者への支援			講義	佐藤
23	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 生活を支えるフォーマルサービス(1)	高齢者のためのフォーマルサービスの概要			講義	佐藤
24	生活を支えるフォーマルサービス(2)	障害者のためのフォーマルサービスの概要			講義	佐藤
25	生活を支えるインフォーマルサービスとは(1)	費用負担による区分 フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係			講義	佐藤
26	生活を支えるインフォーマルサービスとは(2)	インフォーマルサービスの種類 インフォーマルサービスの提供者			講義	佐藤
27	生活を支えるインフォーマルサービスとは(3)	介護福祉士に求められる支援の視点			講義	佐藤
28	地域連携(1)	地域連携と意義と目的			講義	佐藤
29	地域連携(2)	地域連携にかかわる機関の理解 利用者を取り巻く地域連携の実際			講義	佐藤
30	評価	試験			試験	佐藤
【教科書】	新・介護福祉士養成講座 3「介護の基本Ⅰ」、4「介護の基本Ⅱ」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】 ・出席状況・学習態度・レポート・試験などを総合し評価する			【履修上の注意点】 ・課題の提出期限を厳守すること ・A4版のレポート用紙及び原稿用紙(横書き)を携行すること			

講義名：介護の基本 Ⅲ (1/2)

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	2
紀 あつ子		鈴木	開講時期	通年	全回数	30(60時間)
看護師として、病院・福祉施設で36年の実務経験					単位数	2
【概要】 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。						
【学習目標】 介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解する。また、多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	第3章介護における安全の確保とリスクマネジメント第1節 介護における安全の確保(1)	介護福祉士の責務と安全の確保 介護の場におけるセーフティマネジメント			講義	紀
2	第1節 介護における安全の確保(2)	安全を重要視する組織風土の醸成 利用者の尊厳の保持と安全な暮らしの提供を第一に考える			講義	紀
3	第2節 リスクマネジメントとは何か(1)	尊厳のある暮らしの継続のためのリスクマネジメント ルールや約束事を守ることの重要性			講義	紀
4	第2節 リスクマネジメントとは何か(2)	福祉サービスに求められる安全・安心 事故防止のための対策			講義	紀
5	第2節 リスクマネジメントとは何か(3)	終わりに 演習3-1			講義	紀
6	第3節 感染症対策(1)	介護福祉職に必要な感染に関する知識 安全な薬物療法を支える視点・連携			講義	紀
7	第3節 感染症対策(2)	終わりに 演習3-2			講義	紀
8	第4章 協働する多職種の機能と役割第1節 多職種連携・協働の必要性(1)	多職種連携・協働とは 多職種連携・協働を要請する社会の動き			講義	紀
9	第1節 多職種連携・協働の必要性(2)	なぜ、多職種連携・協働が必要なのか 多職種連携・協働を阻むもの			講義	紀
10	第1節 多職種連携・協働の必要性(3)	多職種連携・協働の効果 演習4-1			講義	紀
11	第2節 多職種連携・協働に求められる基本的な能力(1)	介護実践の場で多職種連携・協働が必要とされる意味 多職種連携・協働のためのチームづくり			講義	紀
12	第2節 多職種連携・協働に求められる基本的な能力(2)	多様な視点と受容を必要とする協働 課題解決に対する多職種のかかわり			講義	紀
13	第2節 多職種連携・協働に求められる基本的な能力(3)	多職種協働を成功させるための介護技術と知識 多職種協働とホスピタリティの視点			講義	紀
14	第2節 多職種連携・協働に求められる基本的な能力(4)	多職種協働に求められるコミュニケーション能力 演習4-2			講義	紀
15	評価				試験	紀
【教科書】	最新・介護福祉士養成講座 4「介護の基本Ⅱ」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】	出席状況・学習態度・レポート・試験などを総合し評価する			【履修上の注意点】 ・課題の提出期限を厳守すること ・A4版のレポート用紙及び原稿用紙(横書き)を携行すること		

講義名 : 介護の基本 III(2/2)

【担当教員】	【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	2
紀 あつ子	鈴木	開講時期	通年	全回数	30(60時間)
看護師として、病院・福祉施設で36年の実務経験				単位数	2
【概要】 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。					
【学習目標】 多職種が連携する必要性や多職種の役割を学ぶとともに、介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解する。					
回数	学習の主題	学習課題		方法	担当教員
16	第3節 保健・医療・福祉職の役割と機能(1)	社会福祉士、介護支援専門員(ケアマネジャー) 医師、歯科医師、看護師、保健師		講義	紀
17	第3節 保健・医療・福祉職の役割と機能(2)	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、 管理栄養士・栄養士		講義	紀
18	第3節 保健・医療・福祉職の役割と機能(3)	歯科衛生士、公認心理士 薬剤師、サービス提供責任者、まとめ		講義	紀
19	第4節 多職種連携・協働の実際(1)	専門職連携実践とは何か 多職種における地域での連携・協働、特養の連携の実態調査		講義	紀
20	第4節 多職種連携・協働の実際(2)	自立支援介護における多職種連携の実際		講義	紀
21	第5章 介護従事者の安全 第1節 健康管理の意義と目的(1)	健康管理の意義と目的、働く人の健康や生活を守る法制度 介護労働の特性と健康問題		講義	紀
22	第1節 健康管理の意義と目的(2)	介護に従事する人の健康問題 健康に働くための健康管理		講義	紀
23	第2節 こころの健康管理(1)	介護従事者にとってのこころの健康問題 ストレス対策とこころの健康		講義	紀
24	第2節 こころの健康管理(2)	こころの病気 職場で取り組むこころの健康、演習5-1		講義	紀
25	第3節 身体の健康管理(1)	介護従事者の身体の健康障害の現状		講義	紀
26	第3節 身体の健康管理(2)	演習5-2(腰痛予防のための注意点)		講義	紀
27	第4節 労働環境の整備(1)	労働環境について学ぶ意義 労働条件がかかわる労働環境		講義	紀
28	第4節 労働環境の整備(2)	介護従事者の労働災害 熱中症と労働環境		講義	紀
29	第4節 労働環境の整備(3)	事例で考える、けがと労働環境の関係 労働環境を整備して、けがを予防する		講義	紀
30	評価			試験	紀
【教科書】	最新・介護福祉士養成講座 4「介護の基本Ⅱ」 中央法規出版株式会社				
【参考書】					
【評価方法】 出席状況・学習態度・レポート・試験などを総合し評価する		【履修上の注意点】 ・課題の提出期限を厳守すること ・A4版のレポート用紙及び原稿用紙(横書き)を携行すること			

講義名 : コミュニケーション技術 I

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
手島 きよ(専任教員)		鈴木	開講時期	前期	全回数	15(30時間)
看護師として、病院で33年の実務経験					単位数	1
【概要】 利用者やその家族との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う。						
【学習目標】 コミュニケーションの意義や援助関係の構築、傾聴、受容、言語・非言語コミュニケーションなど、介護を実践する際の基本となるコミュニケーションについての考え方や技術を学ぶと共に、利用者の家族とどうかかわっていくかを学ぶ。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	科目オリエンテーション	コミュニケーション技術を学ぶ目的と意義			講義	手島
2	介護におけるコミュニケーションの基本(1)	介護におけるコミュニケーションとは			講義	手島
3	介護におけるコミュニケーションの基本(2)	介護におけるコミュニケーションの対象			講義	手島
4	介護におけるコミュニケーションの基本(3)	援助関係とコミュニケーション			講義	手島
5	コミュニケーションの基本技術(1)	傾聴・受容			講義	手島
6	コミュニケーションの基本技術(2)	共感・コミュニケーションにおける距離			講義	手島
7	コミュニケーションの基本技術(3)	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本			講義	手島
8	コミュニケーションの基本技術(4)	目的別のコミュニケーション技術①			講義	手島
9	コミュニケーションの基本技術(5)	目的別のコミュニケーション技術②			講義	手島
10	コミュニケーションの基本技術(6)	集団におけるコミュニケーション技術①			講義	手島
11	コミュニケーションの基本技術(7)	集団におけるコミュニケーション技術②			講義	手島
12	家族とのコミュニケーション(1)	家族との関係づくり			講義	手島
13	家族とのコミュニケーション(2)	家族への助言・指導・調整			講義	手島
14	家族とのコミュニケーション(3)	家族関係と介護ストレスへの対応			講義	手島
15	評価				試験	手島
【教科書】最新・介護福祉士養成講座 5「コミュニケーション技術」 中央法規出版株式会社						
【参考書】						
【評価方法】 出席状況・学習態度・レポート・試験などを総合し評価する				【履修上の注意点】 ・課題の提出期限を厳守すること ・A4版のレポート用紙及び原稿用紙(横書き)を携行すること		

講義名：コミュニケーション技術 II

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
手島 きよ(専任教員)		鈴木	開講時期	後期	全回数	15(30時間)
看護師として、病院で33年の実務経験					単位数	1
【概要】 利用者やその家族との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う。						
【学習目標】 視覚障害者や聴覚障害者などさまざまなコミュニケーション障害のある人の特性と支援の方法を学習すると共に、チーム力を高めるコミュニケーションの方法等を学ぶ。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	対象者の特性に応じたコミュニケーション	コミュニケーション障害とは コミュニケーション障害の原因			講義	手島
2	対象者の特性に応じたコミュニケーション	アセスメント コミュニケーション支援の基本			講義	手島
3	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援(1)	視覚障害のある人への支援 聴覚障害のある人への支援			講義	手島
4	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援(2)	構音障害のある人への支援 失語症の人への支援			講義	手島
5	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援(3)	認知症の人への支援 うつ病・抑うつ状態の人への支援			講義	手島
6	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援(4)	統合失調症の人への支援 知的障害のある人への支援			講義	手島
7	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援(5)	発達障害のある人への支援 高次脳機能障害のある人への支援			講義	手島
8	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援(6)	重症心身障害のある人への支援			講義	手島
9	介護におけるチームのコミュニケーション(1)	チームのコミュニケーションとは			講義	手島
10	介護におけるチームのコミュニケーション(2)	報告・連絡・相談の意義 報告・連絡の技術			講義	手島
11	介護におけるチームのコミュニケーション(3)	相談の技術 報告・連絡・相談を促進する環境づくり			講義	手島
12	介護におけるチームのコミュニケーション(4)	記録の意義と目的、記録の種類 記録の方法と書き方、記録の実際			講義	手島
13	介護におけるチームのコミュニケーション(5)	会議とは。会議の議事進行 チームにおける説明の技術			講義	手島
14	介護におけるチームのコミュニケーション(6)	事例検討に関する技術 情報の活用と管理のための技術			講義	手島
15	評価	試験			試験	手島
【教科書】	新・介護福祉士養成講座 5「コミュニケーション技術」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】 出席状況・学習態度・レポート・試験などを総合し評価する			【履修上の注意点】 ・課題の提出期限を厳守すること ・A4版のレポート用紙及び原稿用紙(横書き)を携行すること			

講義名：生活支援技術 A (1/2)

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
佐藤 隆夫(専任教員)		鈴木	開講時期	前期	全回数	30(60時間)
介護福祉士として、福祉施設で5年の実務経験					単位数	1
【概要】 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学習する。						
【学習目標】 ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援につなげる。介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	第1章 生活支援の理解 第1節 生活支援の基本的な考え方(1)	生活支援とは何か			講義	佐藤
		ライフサイクルと生活の豊かさ				
2	第1節 生活支援の基本的な考え方(2)	生活支援のポイント			講義	佐藤
3	第2節 生活支援と介護過程(1)	ICFの視点にもとづく生活支援			講義	佐藤
4	第2節 生活支援と介護過程(2)	本人(利用者)を理解するためのICFの視点			講義	佐藤
		生活支援とは				
5	第3節 生活支援とチームアプローチ	生活支援におけるチームアプローチの重要性			講義	佐藤
		ライフステージとチームアプローチのあり方				
6	第4章 福祉用具の意義 第1節 生活支援における福祉用具の重要性	福祉用具とは、公的制度における福祉用具の給付の変遷			講義	佐藤
		福祉用具を使用する意義、介護ロボットの開発・可能性				
7	第2節 福祉用具の種類	福祉用具の分類			講義	佐藤
		公的制度における福祉用具サービス				
8	第3節 適切な福祉用具を選ぶための視点(1)	解決手段は福祉用具だけではない、リスクマネジメント			講義	佐藤
		福祉用具の提供プロセス				
9	第3節 適切な福祉用具を選ぶための視点(2)	福祉用具を選ぶためのアセスメントの視点			講義	佐藤
		福祉用具の適合・モニタリングの視点				
10	第6章 応急手当の知識と技術 第1節 応急手当について	想定される事故と予防の視点			講義	佐藤
		応急手当とは				
11	第2節 応急手当の実際	外傷、骨折			講義	佐藤
		窒息、熱傷(やけど)				
12	第7章 災害時における生活支援 第1節 被災地で活動する際の心構え(1)	生活支援の重要性、現場の状況			講義	佐藤
		生活の主役はその人自身、自分自身の自立				
13	第1節 被災地で活動する際の心構え(2)	活動の中止、支援者としてのあり方			講義	佐藤
		介護福祉士自身が被災した場合				
14	第2節 災害時における生活支援	被災地における活動場所、災害時における生活支援			講義	佐藤
		演習7-1、演習7-2				
15	評価	試験			試験	佐藤
【教科書】	最新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」、7「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】	出席状況・学習態度・レポート・試験などを総合し評価する			【履修上の注意点】 ・課題の提出期限を厳守すること ・実習室に入る場合はユニホームを着用し身だしなみを整えていること ・A4版のレポート用紙及び原稿用紙(横書き)を携行すること		

講義名 : 生活支援技術 A (2/2)

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
佐藤 隆夫(専任教員)		鈴木	開講時期	前期	全回数	30(60時間)
介護福祉士として、福祉施設で5年の実務経験					単位数	1
【概要】 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学習する。						
【学習目標】 休息・睡眠環境を整えるための知識及び技術を理解するとともに、人生の最終段階におけるケアの意味や死をむかえる人の介護、亡くなったあとの介護の知識及び技術を理解する。						
回数	学習の主題	学習課題		方法	担当教員	
16	第5章 休息・睡眠の介護 第1節 休息・睡眠とは(1)	休息・睡眠とは		講義	佐藤	
		休息・睡眠の効果、快適な睡眠の一連の流れ				
17	第1節 休息・睡眠とは(2)	安眠を阻害する要因		講義	佐藤	
18	第1節 休息・睡眠とは(3)	安眠をうながす介護をするために介護福祉職がすべきこと		講義	佐藤	
19	第2節 休息・睡眠の介護(1)	休息・睡眠環境を整える①		講義	佐藤	
		特殊寝台と付属用具、				
20	第2節 休息・睡眠の介護(2)	休息・睡眠環境を整える②		講義	佐藤	
21	第2節 休息・睡眠の介護(3)	睡眠障害と支援		講義	佐藤	
22	第3節 休息・睡眠の介護における多職種との連携(1)	多職種連携の必要性		講義	佐藤	
23	第3節 休息・睡眠の介護における多職種との連携(2)	多職種の役割、介護福祉職との連携		講義	佐藤	
24	第6章 人生の最終段階における介護 第1節 人生の最終段階の意義と介護の役割(1)	人生の最終段階におけるケアの意味		講義	佐藤	
25	第1節 人生の最終段階の意義と介護の役割(2)	人生の最終段階におけるアセスメントの視点		講義	佐藤	
26	第2節 人生の最終段階における介護(1)	死をむかえる人の介護		講義	佐藤	
		死をむかえた人の介護				
27	第2節 人生の最終段階における介護(2)	亡くなったあとの介護・グリーフケア		講義	佐藤	
28	第3節 人生の最終段階の介護における多職種との連携(1)	人生の最終段階における多職種連携の必要性		講義	佐藤	
29	第3節 人生の最終段階の介護における多職種との連携(2)	多職種の役割と介護福祉職との連携		講義	佐藤	
30	評価	試験		試験	佐藤	
【教科書】	最新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」、7「生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】	出席状況・学習態度・レポート・試験などを総合し評価する			【履修上の注意点】	・課題の提出期限を厳守すること	

講義名：生活支援技術 B (1/2)

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
鈴木佳代子(専任教員) 介護福祉士として、病院・福祉施設で20年の実務経験		鈴木	開講時期	前期	全回数	30(60時間)
薄 美香 介護福祉士として、病院・福祉施設で20年の実務経験					単位数	1
【概要】 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学習する。						
【学習目標】 あらゆる生活行為の基本となる「移動」を取り上げ、自立した移動の一連の流れを理解したうえで、移動・移乗における具体的な介護技術を学ぶ。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	オリエンテーション	科目を学ぶ目的と意義 履修上の注意			講義	鈴木
2	ボディメカニクス	日常生活におけるからだの動きを意識しよう 支持基底面と重心線の関係を体験する			実技	鈴木
3	「生活支援技術Ⅰ」 自立に向けた移動の介護(1)	自立した移動とは 自立した移動の一連の流れ			実技	鈴木
4	自立に向けた移動の介護(2)	自立に向けた移動の介護をするために介護福祉職がすべきこと 移動・移乗の基本的な理解			実技	鈴木
5	自立に向けた移動の介護(3)	移動・移乗の基本的な理解			実技	鈴木
6	自立に向けた移動の介護(4)	体位変換の介助			実技	鈴木
7	自立に向けた移動の介護(5)	体位変換の介助			実技	鈴木
8	自立に向けた移動の介護(6)	安楽な姿勢・体位を保持する介助			実技	鈴木
9	自立に向けた移動の介護(7)	車いす介助			実技	鈴木
10	自立に向けた移動の介護(8)	車いす介助			実技	鈴木
11	自立に向けた移動の介護(9)	移動・移乗のための道具・用具			実技	鈴木
12	自立に向けた移動の介護(10)	歩行の介助			実技	鈴木
13	自立に向けた移動の介護(11)	歩行の介助			実技	鈴木
14	自立に向けた移動の介護(12)	移動の介護における他職種との連携			実技	鈴木
15	評価				実技 試験	鈴木
【教科書】	最新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」、7「生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】	・出席状況・学習態度・レポート・試験などを総合し評価する			【履修上の注意点】 ・課題の提出期限を厳守すること ・実習室に入る場合はユニホームを着用し身だしなみを整えていること ・A4版のレポート用紙及び原稿用紙(横書き)を携行すること		

講義名：生活支援技術 B (2/2)

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
薄 美香 介護福祉士として、病院・福祉施設で20年の実務経験	鈴木佳代子(専任教員) 介護福祉士として、病院・福祉施設で20年の実務経験	鈴木	開講時期	前期	全回数	30(60時間)
					単位数	1
【概要】 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学習する。						
【学習目標】 トイレやポータブルトイレでの排泄の介助方法、立位でのパッド交換、おむつを使用した排泄介助など、さまざまな介助について学ぶと共に、自立した身じたくの一連の流れを理解したうえで、利用者の状態に応じた身じたくの介助方法を身に付ける。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
16	第4章 自立に向けた排泄の介護 第1節 自立した排泄とは	自立した排泄とは、自立した排泄の一連の流れ			実技	薄
		自立に向けた排泄の介護をするために介護福祉職がすべきこと				
17	第2節 自立に向けた排泄の介護(1)	排泄方法の選択			実技	薄
		トイレでの排泄の介助方法				
18	第2節 自立に向けた排泄の介護(2)	トイレでの排泄の介助方法			実技	薄
19	第2節 自立に向けた排泄の介護(3)	ポータブルトイレでの排泄の介助方法			実技	薄
20	第2節 自立に向けた排泄の介護(4)	立位でのパッド交換の介助			実技	薄
		尿器、差し込み便器での排泄の介助				
21	第2節 自立に向けた排泄の介護(5)	おむつでの排泄の介助			実技	薄
22	第2節 自立に向けた排泄の介護(6)	頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁への対応			実技	薄
23	第2節 自立に向けた排泄の介護(7)	その他の排泄に関するさまざまな介助			実技	薄
24	第3節 排泄の介護における多職種との連携	排泄における他職種との連携の必要性			実技	薄
		多職種の役割と介護福祉職との連携				
25	第1章 自立に向けた身じたくの介護 第1節 自立した身じたくとは	自立した身じたくとは、自立した身じたくの一連の流れ			実技	薄
		自立に向けた身じたくの介護をするために介護福祉職がすべきこと				
26	第2節 自立に向けた身じたくの介護(1)	利用者の状態や状況を確認する、自立に向けた…確認ポイント			実技	薄
		利用者の状態に応じた身じたくの介助①				
27	第2節 自立に向けた身じたくの介護(2)	利用者の状態に応じた身じたくの介助②			実技	薄
28	第2節 自立に向けた身じたくの介護(3)	利用者の状態に応じた身じたくの介助③			実技	薄
29	第3節 身じたくの介護における多職種との連携	身じたくの介護における他職種連携の必要性			実技	薄
		多職種の役割と介護福祉職との連携				
30	評価	試験			試験	薄
【教科書】	最新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」、7「生活支援技術Ⅱ」、8「生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】	・出席状況・学習態度・レポート・試験などを総合し評価する			【履修上の注意点】 ・課題の提出期限を厳守すること ・実習室に入る場合はユニホームを着用し身だしなみを整えていること ・A4版のレポート用紙及び原稿用紙(横書き)を携行すること		

講義名 : 生活支援技術 C (1/2)

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
栗城 正子(専任教員)		鈴木	開講時期	後期	全回数	30(60時間)
介護福祉士として、福祉施設で14年の実務経験					単位数	1
【概要】 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学習する。						
【学習目標】 対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。						
回数	学習の主題	学習課題		方法	担当教員	
1	第3章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 第1節 自立した入浴・清潔保持とは(1)	自立した入浴・清潔保持とは 自立した入浴の一連の流れ		実技	栗城	
2	第1節 自立した入浴・清潔保持とは(2)	介護福祉職がすべきこと		実技	栗城	
3	第2節 自立に向けた入浴・清潔保持の介護(1)	入浴の可否と清潔にする方法の選択		実技	栗城	
4	第2節 自立に向けた入浴・清潔保持の介護(2)	入浴の介助		実技	栗城	
5	第2節 自立に向けた入浴・清潔保持の介護(3)	清潔保持の介助		実技	栗城	
6	第2節 自立に向けた入浴・清潔保持の介護(4)	入浴・清潔保持のための道具・用具		実技	栗城	
7	第3節 入浴・清潔保持の介護における他職種との連携	入浴・清潔保持の介護における他職種との連携の必要性 他職種との役割と介護福祉職との連携、入浴時の変化と他職種連携		実技	栗城	
8	第2章 自立に向けた食事の介護 第1節 食事の意義と目的(1)	自立した食事とは 自立した食事の一連の流れ		実技	栗城	
9	第1節 食事の意義と目的(2)	介護福祉職がすべきこと		実技	栗城	
10	第2節 自立に向けた食事の介護(1)	食事の介助を行うにあたって 介護の基本原則にのっとった食事の介護		実技	栗城	
11	第2節 自立に向けた食事の介護(2)	利用者の状態に応じた食事の介助		実技	栗城	
12	第2節 自立に向けた食事の介護(3)	誤嚥の予防のための支援		実技	栗城	
13	第2節 自立に向けた食事の介護(4)	食後の口腔ケア		実技	栗城	
14	第3節 食事の介護における多職種との連携	食事の介護における多職種連携の必要性 他職種との役割と介護福祉職との連携		実技	栗城	
15	評価	試験		試験	栗城	
【教科書】	最新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」・7「生活支援技術Ⅱ」・8「生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】	・出席状況・学習態度・レポート・試験などを総合し評価する		【履修上の注意点】 ・課題の提出期限を厳守すること ・実習室に入る場合はユニホームを着用し身だしなみを整えていること ・A4版のレポート用紙及び原稿用紙(横書き)を携行すること			

講義名 : 生活支援技術 C (2/2)

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
栗城 正子(専任教員)		鈴木	開講時期	後期	全回数	30(60時間)
介護福祉士として、福祉施設で14年の実務経験					単位数	1
【概要】 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学習する。						
【学習目標】 ①障害や疾病のある人について、医学的・心理的側面から理解する。 ②生活上の困りごとを理解する。 ③障害や疾病のある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解する						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
16	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは	障害や疾病とともに生活する人を支える 介護福祉士の行う「生活支援」、介護福祉士の役割			実技	栗城
17	障害に応じた生活支援技術 I (1) 肢体不自由に応じた介護	肢体不自由の理解 生活上の困り事(観察の視点)			実技	栗城
18	障害に応じた生活支援技術 I (2)	支援の展開 事例で学ぶ			実技	栗城
19	障害に応じた生活支援技術 I (3) 視覚障害に応じた介護	視覚障害の理解 生活上の困り事(観察の視点)			実技	栗城
20	障害に応じた生活支援技術 I (4)	支援の展開 事例で学ぶ			実技	栗城
21	障害に応じた生活支援技術 I (5) 聴覚・言語障害に応じた介護	聴覚障害の理解 生活上の困り事(観察の視点)			講義	栗城
22	障害に応じた生活支援技術 I (6)	支援の展開 事例で学ぶ			講義	栗城
23	障害に応じた生活支援技術 I (7)	言語障害の理解 生活上の困り事(観察の視点)			講義	栗城
24	障害に応じた生活支援技術 I (8)	支援の展開 事例で学ぶ			講義	栗城
25	障害に応じた生活支援技術 I (9) 重複障害<盲ろう>に応じた介護	重複障害とは 盲ろう重複障害の理解			講義	栗城
26	障害に応じた生活支援技術 I (10)	生活上の困り事(観察の視点) 支援の展開			講義	栗城
27	障害に応じた生活支援技術 I (11)	事例で学ぶ			講義	栗城
28	障害に応じた生活支援技術 I (12) 重症心身障害に応じた介護	重症心身障害の理解 生活上の困り事(観察の視点)			講義	栗城
29	障害に応じた生活支援技術 I (13)	支援の展開 事例で学ぶ			講義	栗城
30	評価	試験			実技 試験	栗城
【教科書】	新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」・7「生活支援技術Ⅱ」第2版・8「生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】 ・出席状況・学習態度・レポート・試験などを総合し評価する			【履修上の注意点】 ・課題の提出期限を厳守すること ・実習室に入る場合はユニホームを着用し身だしなみを整えていること ・A4版のレポート用紙及び原稿用紙(横書き)を携行すること			

講義名：生活支援技術 D (レクリエーション)

【担当教員】	【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
土橋和代	鈴木	開講時期	後期	全回数	15(30時間)
レクリエーションコーディネーター				単位数	1
【概要】 レクリエーションの基礎理論から援助の実際までを学習する。					
【学習目標】 レクリエーションの意義を理解し、社会福祉の中でのレクリエーションと生活の関係を理解する。					
回数	学習の主題	学習課題		方法	担当教員
1	レクリエーションの基礎理論	レクリエーションの意義		講義	土橋
		レクリエーションとは何かを語源や歴史から学ぶ			
2	レクリエーションの期待	レクリエーションが活用される場面と目的		講義	土橋
3	実技体験	楽しさを体験することにより、アイスブレイキングの意義を考える。		実技	土橋
4	アイスブレイキングの基礎技術	一体感・安心感を提供するための技法を理解する。		実技	土橋
5	レクリエーション支援の考え方	基本的な支援の方法を理解する。		実技	土橋
		対象者の主体性を引き出すためには何が大切かを考える。			
6	支援者に期待される役割	好きなことを活用することがライフスタイルの充実につながることを理解を深める。		実技	土橋
7	レクリエーション支援論 生活とレクリエーション	ライフステージごとのレクリエーションの意義を考える		実技	土橋
8	高齢社会の課題とレクリエーション	社会福祉の中でのレクリエーションからの働きかけが期待される課題について理解する。		講義	土橋
9	高齢社会の課題とレクリエーション	個別援助・集団援助の場面での期待される効果の理解を深める。		講義	土橋
10	レクリエーション事業の考え方	楽しさを原動力としたレクリエーション支援の考え方について理解を深める。		演習	土橋
11	レクリエーション支援の展開方法	ケース・スタディをもとに支援展開について学習する。		演習	土橋
12	プログラムの組立方	総合プログラム計画の必要性を理解する。		演習	土橋
13	事業計画	援助プロセスの手順と、それぞれのステップを考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。		演習	土橋
14	事業計画	レクリエーション企画書の作成の方法の理解を深める。		演習	土橋
15	評価			試験	土橋
【教科書】	「レクリエーション支援の基礎」 日本レクリエーション協会				
【参考書】					
【評価方法】	・試験、レポート、出席状況、授業態度などを総合して評価する。		【履修上の注意点】 ・授業は実技が行えるような服装で出席すること。		

講義名 : 生活支援技術 D (家事支援:栄養・調理)

【担当教員】	【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
武藤 みや子	鈴木	開講時期	後期	全回数	15(30時間)
元高校教師				単位数	1
【概要】 食生活の基本となる栄養・食材・調理について正しい知識をもって、高齢者・障がい者それぞれに見合った適正な食事の介護ができる介護福祉士としての能力を養う。					
【学習目標】 ・健康と栄養について、広義にわたって理解し、説明できる。 ・食に関するさまざまな技能を習得し、高齢者や障がい者の食生活支援能力を養う。 ・さらに基本的な調理技術を身につけ、食材の組み合わせ・盛りつけ・味加減などの工夫で食が豊かになることを学ぶ。					
回数	学習の主題	学習課題		方法	担当教員
1	生活と食事	家庭生活と食事		講義	武藤
		社会の変動と食生活			
2	身体の機能と栄養	日本人の食事摂取基準について		講義	武藤
3	食生活と健康	日本人の食生活の変化と健康状態		講義	武藤
4	食生活と健康	バランスの良い食事とバランスの良い献立		講義	武藤
5	高齢者の食生活	高齢者の栄養と食事		講義	武藤
6	障がい者の食生活	障がい者の栄養と食事		講義	武藤
7	調理の基本と食事の配慮	調理の基本、だしの取り方		実技	武藤
		食材・調理法の配慮			
8	主菜に煮物	煮物を主菜に献立を立てる		実技	武藤
		調理し、試食し、感想を述べ合う			
9	主菜に蒸し物①	蒸し物主菜の献立を考える		実技	武藤
10	主菜に蒸し物②	調理し、試食し、感想を述べ合う		実技	武藤
11	軟菜食(全粥)①	全粥に適した食材・調理法を選び、献立を立てる		実技	武藤
12	軟菜食(全粥)②	調理し、試食し、感想を述べ合う		実技	武藤
13	介護食(咀嚼に障害がある高齢者)①	食材にあった切り方を工夫する		実技	武藤
14	介護食(咀嚼に障害がある高齢者)②	献立に基づいて調理し、試食し、感想を述べ合う		実技	武藤
15	評価	試験		試験	武藤
【教科書】	最新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術 I」 中央法規出版株式会社				
【参考書】	新訂版「食品解説つき 新ビジュアル食品成分表」 大修館書店				
【評価方法】 ・試験、学習態度、出席状況を総合して評価する。		【履修上の注意点】 ・調理実習時、身嗜みを整えて実習に臨むこと。 ・提出期限を厳守すること。 ・調理実習時エプロン・三角巾着用し、調理を行うに相応しい身だしなみで実習室に入ること。			

講義名：生活支援技術 E (1/2)

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	2
鈴木佳代子(専任教員)		鈴木	開講時期	通年	全回数	30(60時間)
介護福祉士として、病院・福祉施設で20年の実務経験					単位数	1
【概要】 尊厳の保持の観点からどのような状態であっても、その人の自立、自律を尊重し潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。構成は生活行為を成立させる技術として、原理・法則性に基づいた技術を習得し、その上で障害に対する応用技術、生活の基本である家政管理技術を総合的に習得する。						
【学習目標】 介護を必要とする人がどのような状態でも生きていることを実感でき、その人が生きるための生活環境づくりをすることで、生活の楽しさや生活の支障の解決について、共に分かちあうことができる。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	オリエンテーション	学ぶ目的と意義			講義	鈴木
2	事例(山田太郎さん)をもとに介護技術を展開する	コミュニケーション 組み立て			実技	鈴木
3	事例(山田太郎さん)をもとに介護技術を展開する	コミュニケーション 実技			実技	鈴木
4	事例(山田太郎さん)をもとに介護技術を展開する	移動 組み立て			実技	鈴木
5	事例(山田太郎さん)をもとに介護技術を展開する	移動 実技			実技	鈴木
6	事例(山田太郎さん)をもとに介護技術を展開する	衣服の着脱 組み立て			実技	鈴木
7	事例(山田太郎さん)をもとに介護技術を展開する	衣服の着脱 実技			実技	鈴木
8	事例(山田太郎さん)をもとに介護技術を展開する	食事 組み立て			実技	鈴木
9	事例(山田太郎さん)をもとに介護技術を展開する	食事 実技			実技	鈴木
10	事例(山田太郎さん)をもとに介護技術を展開する	起床～臥床の一連の流れ 組み立て			実技	鈴木
11	事例(山田太郎さん)をもとに介護技術を展開する	起床～臥床の一連の流れ 実技			実技	鈴木
12	事例(山田太郎さん)をもとに介護技術を展開する	試験前の振り返り(1)			実技	鈴木
13	事例をもとに介護技術を展開する	試験前の振り返り(2)			実技	鈴木
14	中間評価	中間試験			実技 試験	鈴木
15	振り返り	振り返り			実技	鈴木
【教科書】	新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」・7「生活支援技術Ⅱ」第2版・8「生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】 ・出席状況・学習態度・レポート・試験などを総合し評価する			【履修上の注意点】 ・課題の提出期限を厳守すること ・実習室に入る場合はユニホームを着用し身だしなみを整えていること ・A4版のレポート用紙及び原稿用紙(横書き)を携行すること			

講義名：生活支援技術 E (2/2)

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	2
鈴木佳代子(専任教員)		鈴木	開講時期	通年	全回数	30(60時間)
介護福祉士として、病院・福祉施設で20年の実務経験					単位数	1
【概要】 尊厳の保持の観点からどのような状態であっても、その人の自立、自律を尊重し潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。構成は生活行為を成立させる技術として、原理・法則性に基づいた技術を習得し、その上で障害に対する応用技術、生活の基本である家政管理技術を総合的に習得する。						
【学習目標】 介護を必要とする人がどのような状態でも生きていることを実感でき、その人が生きるための生活環境づくりをすることで、生活の楽しさや生活の支障の解決について、共に分かちあうことができる。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
16	鈴木花子さんの事例確認				実技	鈴木
17	事例(鈴木花子さん)をもとに介護技術を展開する	コミュニケーション 組み立て			実技	鈴木
18	事例(鈴木花子さん)をもとに介護技術を展開する	コミュニケーション 実技			実技	鈴木
19	事例(鈴木花子さん)をもとに介護技術を展開する	移動 組み立て			実技	鈴木
20	事例(鈴木花子さん)をもとに介護技術を展開する	移動 実技			実技	鈴木
21	事例(鈴木花子さん)をもとに介護技術を展開する	排泄 組み立て			実技	鈴木
22	事例(鈴木花子さん)をもとに介護技術を展開する	排泄 実技			実技	鈴木
23	事例(鈴木花子さん)をもとに介護技術を展開する	衣服の着脱 組み立て			実技	鈴木
24	事例(鈴木花子さん)をもとに介護技術を展開する	衣服の着脱 実技			実技	鈴木
25	事例(鈴木花子さん)をもとに介護技術を展開する	食事 組み立て			実技	鈴木
26	事例(鈴木花子さん)をもとに介護技術を展開する	食事 実技			実技	鈴木
27	事例(鈴木花子さん)をもとに介護技術を展開する	入浴 組み立て			実技	鈴木
28	事例(鈴木花子さん)をもとに介護技術を展開する	入浴 実技			実技	鈴木
29	最終評価	最終評価			実技 試験	鈴木
30	振り返り	振り返り			実技	鈴木
【教科書】	新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」・7「生活支援技術Ⅱ」第2版・8「生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】 ・出席状況・学習態度・レポート・試験などを総合し評価する			【履修上の注意点】 ・課題の提出期限を厳守すること ・実習室に入る場合はユニホームを着用し身だしなみを整えていること ・A4版のレポート用紙及び原稿用紙(横書き)を携行すること			

講義名 : 介護過程 I

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
栗城 正子(専任教員)		鈴木	開講時期	後期	全回数	15(30時間)
介護福祉士として、福祉施設で14年の実務経験					単位数	1
【概要】 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を取得する						
【学習目標】 介護実践における介護過程の意義の理解を踏まえ、介護過程を展開するための一連のプロセスを理解する。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	第1章 介護過程とは 第1節 介護過程とは(1)	介護過程の意義・目的			講義	栗城
		介護過程の全体像				
2	第1節 介護過程とは(2)	介護過程とICF(国際生活機能分類)			講義	栗城
3	第2節 生活支援における介護過程の必要性	生活支援における介護過程の意義			講義	栗城
		介護過程と事例検討				
4	第2章 介護過程の理解 第1節 本章の目的と構成	アセスメントの思考の方法を提示			講義	栗城
		アセスメントの視点の提示				
5	第2節 介護過程の展開(1)	アセスメント			講義	栗城
		介護計画の立案				
6	第2節 介護過程の展開(2)	介護の実施			講義	栗城
		評価				
7	第3節 アセスメント(情報収集)(1)	情報収集の意義			講義	栗城
		アセスメントと情報収集				
8	第3節 アセスメント(情報収集)(2)	情報収集の方法(ICFモデルの活用)			講義	栗城
9	第4節 アセスメント(解釈・関連づけ・統合化)(1)	情報の解釈・関連づけ・統合化、生活課題の明確化とは			講義	栗城
10	第4節 アセスメント(解釈・関連づけ・統合化)(2)	アセスメントの視点			講義	栗城
11	第4節 アセスメント(解釈・関連づけ・統合化)(3)	アセスメントの実際			講義	栗城
12	第5節 介護計画の立案	介護計画とは 介護目標の設定			講義	栗城
		具体的な支援内容・支援法法の決定				
13	第6節 介護の実施	介護の実施とは			講義	栗城
		実施における留意点、実施の記録				
14	第7節 評価	評価の意義と目的			講義	栗城
		評価の内容と方法				
15	評価				試験	栗城
【教科書】	最新・介護福祉士養成講座 9「介護過程」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】 ・試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合して評価する。			【履修上の注意点】 ・提出期限厳守			

講義名：介護過程 II

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	2
栗城 正子(専任教員)		鈴木	開講時期	前期	全回数	15(30時間)
介護福祉士として、福祉施設で14年の実務経験					単位数	1
【概要】 他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。						
【学習目標】 介護過程の知識・技術を理解し、介護実践に活かすことができる。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	介護を必要とする方の状況に応じた介護過程の展開	ペーパーシミュレーション①			講義	栗城
		妻と自宅で生活する右半身麻痺の男性の事例①				
2	介護を必要とする方の状況に応じた介護過程の展開	妻と自宅で生活する右半身麻痺の男性の事例②			講義	栗城
3	介護を必要とする方の状況に応じた介護過程の展開	妻と自宅で生活する右半身麻痺の男性の事例③			講義	栗城
4	介護を必要とする方の状況に応じた介護過程の展開	妻と自宅で生活する右半身麻痺の男性の事例④			講義	栗城
5	介護を必要とする方の状況に応じた介護過程の展開	ペーパーシミュレーション①			講義	栗城
		帰宅を目標に介護老人保健施設で生活する女性の事例①				
6	介護を必要とする方の状況に応じた介護過程の展開	帰宅を目標に介護老人保健施設で生活する女性の事例②			講義	栗城
7	介護を必要とする方の状況に応じた介護過程の展開	帰宅を目標に介護老人保健施設で生活する女性の事例③			講義	栗城
8	介護を必要とする方の状況に応じた介護過程の展開	帰宅を目標に介護老人保健施設で生活する女性の事例④			講義	栗城
9	介護過程とケアマネジメントの関係性	ケアマネジメントの定義			講義	栗城
		ケアマネジメントの歴史的背景				
10	ケアマネジメントの全体像	ケアマネジメントの構成要素			講義	栗城
		ケアマネジメントの理念・目的				
11	個別援助計画とケアプランの関係性	ケアマネジメントと介護過程			講義	栗城
		ケアプランと個別援助計画				
12	チームアプローチにおける介護福祉士の役割	チームアプローチの意義			講義	栗城
13	チームアプローチにおける介護福祉士の役割	チームアプローチの実際			講義	栗城
14	まとめ	一連の介護過程の展開を説明できる			講義	栗城
15	評価				試験	栗城
【教科書】	新・介護福祉士養成講座 9「介護過程」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】 ・試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合して評価する。			【履修上の注意点】 ・提出期限厳守			

講義名：介護過程Ⅲ（1/2）

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	2
鈴木 佳代子(専任教員)		鈴木	開講時期	通年	全回数	30(60時間)
介護福祉士として、病院・福祉施設で20年の実務経験					単位数	1
【概要】 他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。						
【学習目標】 介護過程の知識・技術を理解し、介護実践に活かすことができる。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	介護過程Ⅲのオリエンテーション	学ぶ意義と目的			講義	鈴木
2	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	介護老人保健施設で生活している事例(山田太郎さん) 事例の情報を基本的・人生・暮らしに関する情報に分類する			講義	鈴木
3	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	介護老人保健施設で生活している事例(山田太郎さん) 事例の情報をICFアセスメント項目に分類する			講義	鈴木
4	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	介護老人保健施設で生活している事例(山田太郎さん) 事例の既往歴や内服薬等を調べる			講義	鈴木
5	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	介護老人保健施設で生活している事例(山田太郎さん) 事例が使用している福祉用具について調べる			講義	鈴木
6	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	介護老人保健施設で生活している事例(山田太郎さん) 関連図を作成する			講義	鈴木
7	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	介護老人保健施設で生活している事例(山田太郎さん) 関連図を作成する			講義	鈴木
8	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	介護老人保健施設で生活している事例(山田太郎さん) アセスメント表を作成する			講義	鈴木
9	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	介護老人保健施設で生活している事例(山田太郎さん) アセスメント表を作成する			講義	鈴木
10	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	介護老人保健施設で生活している事例(山田太郎さん) 計画を立案する			講義	鈴木
11	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	介護老人保健施設で生活している事例(山田太郎さん) 計画を立案する			講義	鈴木
12	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	介護老人保健施設で生活している事例(山田太郎さん) 発表			講義	鈴木
13	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	介護老人保健施設で生活している事例(山田太郎さん) 発表			講義	鈴木
14	情報収集の方法	情報収集の方法(再確認) 五感を用いた観察・計測器を使用した測定			講義	鈴木
15	評価				試験	鈴木
【教科書】	新・介護福祉士養成講座 9「介護過程」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】 ・試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合して評価する。		【履修上の注意点】 ・提出期限厳守				

講義名：介護過程 Ⅲ (2/2)

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	2
鈴木 佳代子(専任教員)		鈴木	開講時期	通年	全回数	30(60時間)
介護福祉士として、病院・福祉施設で20年の実務経験					単位数	1
【概要】 他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。						
【学習目標】 介護過程の知識・技術を理解し、介護実践に活かすことができる。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
16	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	実習Ⅱの振り返り①			講義	鈴木
		自己評価表の作成、アセスメント				
17	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	実習Ⅱの振り返り②			講義	鈴木
		関連図及び個別援助計画について				
18	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	実習Ⅱの振り返り③			講義	鈴木
		実習日誌の確認及び実習Ⅲへの抱負				
19	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	実習Ⅲの準備①			講義	鈴木
		「到達目標」及び「到達目標」達成の方法を考える				
20	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	実習Ⅲへの準備②			講義	鈴木
		個人調査書及び誓約書作成、				
21	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	介護老人福祉施設で生活している事例(鈴木花子さん)			講義	鈴木
		アセスメント表作成				
22	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	介護老人福祉施設で生活している事例(鈴木花子さん)			講義	鈴木
		アセスメント表作成、				
23	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	介護老人福祉施設で生活している事例(鈴木花子さん)			講義	鈴木
		事例の既往歴や内服薬等を調べる				
24	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	介護老人福祉施設で生活している事例(鈴木花子さん)			講義	鈴木
		関連図の作成				
25	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	介護老人福祉施設で生活している事例(鈴木花子さん)			講義	鈴木
		個別援助計画立案				
26	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	介護老人福祉施設で生活している事例(鈴木花子さん)			講義	鈴木
		個別援助計画立案(実施・評価案含め)について				
27	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	介護老人福祉施設で生活している事例(鈴木花子さん)			講義	鈴木
		発表				
28	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開	介護老人福祉施設で生活している事例(鈴木花子さん)			講義	鈴木
		発表				
29	まとめ	情報の収集とICFの考え方について			講義	鈴木
		ケーススタディについて				
30	評価				試験	鈴木
【教科書】	新・介護福祉士養成講座 9「介護過程」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】 ・試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合して評価する。			【履修上の注意点】 ・提出期限厳守			

講義名：介護過程Ⅳ

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	2
栗城 正子(専任教員)		鈴木	開講時期	後期	全回数	15(30時間)
介護福祉士として、福祉施設で14年の実務経験					単位数	1
【概要】 他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。						
【学習目標】 介護過程の知識・技術を理解し、介護実践に活かすことができる。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	オリエンテーション	科目を学ぶ目的と意義			講義	栗城
		介護実習Ⅲの事例の情報収集を見直す				
2	事例をとおして介護過程の展開	介護実習Ⅲの事例の情報収集を見直す			講義	栗城
3	事例をとおして介護過程の展開	介護実習Ⅲの事例の情報収集(関連図)を見直す			講義	栗城
4	事例をとおして介護過程の展開	介護実習Ⅲの事例の情報収集(関連図)を見直す			講義	栗城
5	事例をとおして介護過程の展開	介護実習Ⅲの事例のアセスメント表を見直す			講義	栗城
6	事例をとおして介護過程の展開	介護実習Ⅲの事例の個別援助計画を見直す			講義	栗城
7	事例をとおして介護過程の展開	介護実習Ⅲの事例の個別援助計画を見直す			講義	栗城
8	事例報告	事例報告をとおして意見交換を行う			講義	栗城
9	事例報告	事例報告をとおして意見交換を行う			講義	栗城
		実習Ⅲの自己評価表の作成、実習Ⅲを振り返る				
10	事例報告	事例報告をとおして意見交換を行う			講義	栗城
11	事例報告	事例報告をとおして意見交換を行う			講義	栗城
12	事例報告	事例報告をとおして意見交換を行う			講義	栗城
13	事例報告	事例報告をとおして意見交換を行う			講義	栗城
14	介護過程の展開まとめ	事例報告をとおして介護過程を再考			講義	栗城
15	評価				試験	栗城
【教科書】	新・介護福祉士養成講座 9「介護過程」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】 ・試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合して評価する。			【履修上の注意点】 ・提出期限厳守			

講義名：介護総合演習 I

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
鈴木 佳代子(専任教員)		鈴木	開講時期	前期	全回数	15(30時間)
介護福祉士として、病院・福祉施設で20年の実務経験					単位数	1
【概要】 実習前(どのような準備をすれば良いのか)、実習中(どのように取り組み学んでいくか)、実習後(どのように学びの成果をまとめるか)という実習のプロセスを学ぶ。実習の場である福祉施設の理解のために、施設概要や実在する施設の情報と利用者の事例紹介を入れ、施設の状態をイメージしやすく学び、実習展開に活かす。						
【学習目標】 介護実習の重要性を踏まえて、介護用語、表現に配慮し介護福祉士の役割を理解し、実践力の向上に役立てる。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	介護総合演習を学ぶ目的と意義	介護総合演習の位置付け 介護総合演習の目的			講義	鈴木
2	介護実習の意義と目的	介護実習の目的と目標 介護実習のプロセス			講義	鈴木
3	介護実習の種類	実習Ⅰと実習Ⅱの目標と主な実習内容			講義	鈴木
4	介護実習前の学びと、実習後の学びへの活かし方	介護実習の3つの段階 他の科目の学習内容のつなぎ方			講義	鈴木
5	介護実習の事前学習の内容と方法	事前学習の目的と意義 事前訪問			講義	鈴木
6	介護実習体験の評価と整理の仕方	事後学習の目的と意義 実習終了後に行うこと(実習先にお礼・実習報告会)			講義	鈴木
7	介護実習Ⅰでの実習先の概要	グループで実習施設の概要及び交通機関を調べる			演習	鈴木
8	介護実習Ⅰでの実習先の概要	グループで実習施設の概要及び交通機関を調べる			演習	鈴木
9	介護実習Ⅰのガイダンス	直前ガイダンス			演習	鈴木
10	介護実習Ⅰのガイダンス	直前ガイダンス			演習	鈴木
11	生活支援技術確認	生活支援技術を確認める			演習	鈴木
12	生活支援技術確認	生活支援技術を確認める			演習	鈴木
13	生活支援技術確認	生活支援技術を確認める			演習	鈴木
14	まとめ				演習	鈴木
15	評価				発表 試験	鈴木
【教科書】	新・介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】 ・試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合して評価する。			【履修上の注意点】 ・提出期限厳守			

講義名：介護総合演習Ⅱ

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
鈴木 佳代子(専任教員)		鈴木	開講時期	後期	全回数	15(30時間)
介護福祉士として、病院・福祉施設で20年の実務経験					単位数	1
【概要】 実習前(どのような準備をすれば良いのか)、実習中(どのように取り組み学んでいくか)、実習後(どのように学びの成果をまとめるか)という実習のプロセスを学ぶ。実習の場である福祉施設の理解のために、施設概要や実在する施設の情報と利用者の事例紹介を入れ、施設の状況をイメージしやすく学び、実習展開に活かす。						
【学習目標】 介護実習の重要性を踏まえて、介護用語、表現に配慮し介護福祉士の役割を理解し、実践力の向上に役立てる。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	介護総合演習Ⅱオリエンテーション	学ぶ目的と意義			講義	鈴木
2	介護実習Ⅰ振り返り	介護実習Ⅰの反省と自己評価 第1週目の実習を振り返る			講義	鈴木
3	介護実習Ⅰ振り返り	介護実習Ⅰの反省と自己評価 第2週目の実習を振り返る			講義	鈴木
4	介護実習Ⅰ振り返り	介護実習Ⅰの反省と自己評価 第3週目の実習を振り返る			講義	鈴木
5	介護実習Ⅰ振り返り	介護実習Ⅰの反省と自己評価 第4週目の実習を振り返る			講義	鈴木
6	介護実習Ⅰ振り返り	介護実習Ⅰでの学び・気づきを報告し意見交換を行う			講義	鈴木
7	介護実習Ⅰ振り返り	介護実習Ⅰでの学び・気づきを報告し意見交換を行う 第1週目の実習施設・事業所の評価を元の実習を振り返る			講義	鈴木
8	介護実習Ⅰ振り返り	介護実習Ⅰでの学び・気づきを報告し意見交換を行う 第2週目の実習施設・事業所の評価を元の実習を振り返る			講義	鈴木
9	介護実習Ⅰ振り返り	介護実習Ⅰでの学び・気づきを報告し意見交換を行う 第3週目の実習施設・事業所の評価を元の実習を振り返る			講義	鈴木
10	介護実習Ⅰ振り返り	介護実習Ⅰでの学び・気づきを報告し意見交換を行う 第4週目の実習施設・事業所の評価を元の実習を振り返る			講義	鈴木
11	介護実習Ⅱに向けた課題	意見交換から自己の課題を確かめる			講義	鈴木
12	介護実習Ⅱに向けた課題	意見交換から自己の課題を確かめる			講義	鈴木
13	介護実習Ⅱに向けて	自己の学習計画を立てる			講義	鈴木
14	まとめ	介護実習Ⅰまとめ 実習報告会			講義	鈴木
15	評価				発表 試験	鈴木
【教科書】 新・介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」 中央法規出版株式会社						
【参考書】						
【評価方法】 ・試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合して評価する。				【履修上の注意点】 ・提出期限厳守		

講義名：介護総合演習 Ⅲ

【担当教員】 栗城 正子(専任教員)		【責任教員】 鈴木	対象学科 介護福祉科	学年 2	
介護福祉士として、福祉施設で14年の実務経験			開講時期 前期	全回数 15(30時間)	
				単位数 1	
【概要】 実習前(どのような準備をすれば良いのか)、実習中(どのように取り組み学んでいくか)、実習後(どのように学びの成果をまとめるか)という実習のプロセスを学ぶ。実習の場である福祉施設の理解のために、施設概要や実在する施設の情報と利用者の事例紹介を入れ、施設の状況をイメージしやすく学び、実習展開に活かす。					
【学習目標】 介護実習の重要性を踏まえて、介護用語、表現に配慮し介護福祉士の役割を理解し、実践力の向上に役立てる。					
回数	学習の主題	学習課題		方法	担当教員
1	介護実習Ⅱオリエンテーション	介護実習Ⅱの目的と達成課題 個人票作成		講義	栗城
2	介護実習Ⅱの準備	個人票作成、提出 実習目的を達成できるように実習目標及び実習計画を立てる		講義	栗城
3	介護実習Ⅱの準備	誓約書、通学経路の作成 自己の学習計画を立てる		講義	栗城
4	介護実習Ⅱの準備	施設を事前訪問し、計画を立てる		講義	栗城
5	事前オリエンテーション臨地実習	一日現地実習施設に行きオリエンテーションを受ける		演習	栗城
6	帰校日	グループ・個人指導 介護過程の経過確認		演習	栗城
7	帰校日	グループ・個人指導 介護過程の経過確認		演習	栗城
8	帰校日	グループ・個人指導 介護過程の経過確認		演習	栗城
9	帰校日	グループ・個人指導 介護過程の経過確認		演習	栗城
10	介護実習Ⅱ振り返り	介護過程の記録等のまとめ		演習	栗城
11	介護実習Ⅱ振り返り	介護過程の記録等のまとめ		演習	栗城
12	介護実習Ⅲへ向けて	事例を通して、ふり返る		演習	栗城
13	介護実習Ⅲへ向けて	事例を通して、ふり返る		演習	栗城
14	介護実習Ⅱ報告会	介護実習Ⅱで学んだことと今後の課題		発表 試験	栗城
15	介護実習Ⅱ報告会	介護実習Ⅱで学んだことと今後の課題		発表 試験	栗城
【教科書】 新・介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」 中央法規出版株式会社					
【参考書】					
【評価方法】 ・試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合して評価する。			【履修上の注意点】 ・提出期限厳守		

講義名：介護総合演習Ⅳ

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	2
栗城正子(専任教員)介護福祉士として、福祉施設で14年の実務経験	鈴木	鈴木	開講時期	後期	全回数	15(30時間)
手島きよ(専任教員)看護師として、病院で33年の実務経験					単位数	1
鈴木佳代子(専任教員)介護福祉士として、病院・福祉施設で20年の実務経験						
佐藤隆夫(専任教員)介護福祉士として、福祉施設で5年の実務経験						
【概要】 実習前(どのような準備をすれば良いのか)、実習中(どのように取り組み学んでいくか)、実習後(どのように学びの成果をまとめるか)という実習のプロセスを学ぶ。実習の場である福祉施設の理解のために、施設概要や実在する施設の情報と利用者の事例紹介を入れ、施設の状況をイメージしやすく学び、実習展開に活かす。						
【学習目標】 介護実習の重要性を踏まえて、介護用語、表現に配慮し介護福祉士の役割を理解し、実践力の向上に役立てる。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	オリエンテーション	ケーススタディの意義・目的・方法・進め方について 介護過程の実践記録をもとに事例研究をまとめる方法を学ぶ			講義	栗城他
2	事例のまとめ	介護過程の実践記録をもとに事例をまとめる			演習	栗城他
3	事例のまとめ提出	事例のまとめ提出			演習	栗城他
4	文献検索	個人指導			演習	栗城他
5	介護事例研究レポート作成	個人指導			演習	栗城他
6	介護事例研究レポート作成	個人指導			演習	栗城他
7	介護事例研究レポート作成	個人指導			演習	栗城他
8	介護事例研究レポート作成	個人指導			演習	栗城他
9	介護事例研究レポート作成	個人指導			演習	栗城他
10	介護事例研究レポート完成・提出	個人指導 事例レポート提出			演習	栗城他
11	発表原稿作成	作成したレポートをもとに、発表原稿を作成する			演習	栗城他
12	発表原稿完成・提出	発表原稿提出			演習	栗城他
13	事例研究報告会	発表・意見交換から今後の課題を明確にする			発表 試験	栗城他
14	事例研究報告会	発表・意見交換から今後の課題を明確にする			発表 試験	栗城他
15	事例研究報告会	発表・意見交換から今後の課題を明確にする			発表 試験	栗城他
【教科書】						
【参考書】						
【評価方法】 ・試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合して評価する。				【履修上の注意点】 ・提出期限厳守		

講義名 : 老人の理解 I

【担当教員】	【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1	
白井 恵理	手島	開講時期	前期	全回数	15(30時間)	
看護師として、病院・福祉施設で25年の実務経験				単位数	2	
【概要】 人間の成長と発達過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。						
【学習目標】 人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクルの各期(乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期)における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解する。老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や、高齢者に多く見られる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	第1章 人間の成長と発達の基礎知識 第1節 成長・発達の考え方	成長・発達とは 環境的要因の重要性			講義	白井
2	第2節 成長・発達の原則・法則	発達の順序性がある、発達の方向性がある 器官・臓器によって成長・・・、一定の時期に経験しないと・・・			講義	白井
3	第3節 成長・発達に影響する要因	遺伝的要因、ホルモンの影響 環境的要因、遺伝的要因と環境的要因の影響に関する考え方			講義	白井
4	第2章 人間の発達段階と発達課題 第1節 発達理論	子どもの発見 さまざまな発達理論			講義	白井
5	第2節 発達段階と発達課題	発達段階と発達課題 各発達理論における発達段階と発達課題、各発達段階の概要			講義	白井
6	第3節 身体的機能の成長と発達(1)	身体的な成長・発達 運動機能の発達			講義	白井
7	第3節 身体的機能の成長と発達(2)	発達にともなう特徴的な疾病や障害			講義	白井
8	第4節 心理的機能の発達	ピアジェの認知発達理論 言語発達			講義	白井
9	第5節 社会的機能の発達	各発達段階での社会性の発達、愛着の発達 道徳・向社会的行動、演習2-1、演習2-2、演習2-3			講義	白井
10	第4章 老化に伴うこととからだの変化と生活 第1節 老化にともなう身体的な変化と生活への影響	加齢による生理機能の全体的低下 身体的機能の低下と日常生活への影響、演習4-1			講義	白井
11	第2節 老化にともなう心理的な変化と生活への影響(1)	認知機能の変化 知的機能の変化と心理的影響			講義	白井
12	第2節 老化にともなう心理的な変化と生活への影響(2)	パーソナリティ(性格)の変化 老化と動機づけ・適応、演習4-2、演習4-3			講義	白井
13	第3節 老化にともなう社会的な変化と生活への影響(1)	社会のなかで生活上の課題 高齢者の社会的活動の現状と課題			講義	白井
14	第3節 老化にともなう社会的な変化と生活への影響(2)	社会における老化理論 演習4-4			講義	白井
15	評価	試験			試験	白井
【教科書】	最新・介護福祉士養成講座 12「発達と老化の理解」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】	・試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合して評価する。			【履修上の注意点】	・提出期限厳守	

講義名：老人の理解 II

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
荒明 喜代子		手島	開講時期	後期	全回数	15(30時間)
看護師として、病院・福祉施設で33年の実務経験					単位数	2
【概要】 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。						
【学習目標】 老年期の特徴と発達課題について学ぶと共に、高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	第3章 老年期の特徴と発達課題 第1節 老年期の定義	老年期の定義			講義	荒明
		生物-心理-社会モデルからみた老年期の定義				
2	第2節 老化とは	老化の特徴			講義	荒明
		老化学説				
3	第3節 老年期の発達課題(1)	老年期の発達課題			講義	荒明
		人格と尊厳・老いの価値				
4	第3節 老年期の発達課題(2)	喪失体験			講義	荒明
		セクシュアリティ				
5	第4節 老年期をめぐる今日的課題	日本の高齢化			講義	荒明
		現在の高齢者の多様性を理解する、演習3-1、演習3-2				
6	第5章 高齢者と健康 第1節 健康長寿に向けての健康	高齢者の健康			講義	荒明
		演習5-1(サクセスフルエイジング)				
7	第2節 高齢者の症状・疾患の特徴	慢性的に経過しやすい、複数の疾患をもつ、非定型的な症状			講義	荒明
		痛みを感じにくい、閉じこもり、廃用症候群、老年症候群				
8	第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	骨格系・筋系			講義	荒明
9	第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	脳・神経系、皮膚・感覚器系			講義	荒明
		循環器系				
10	第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	呼吸器系			講義	荒明
		消化器系				
11	第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	腎・泌尿器系			講義	荒明
		内分泌・代謝系				
12	第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	歯・口腔疾患			講義	荒明
		悪性新生物(がん)				
13	第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	感染症			講義	荒明
		精神疾患、その他				
14	第4節 保健医療職との連携	演習5-4(他職種との連携)			講義	荒明
15	評価	試験			試験	荒明
【教科書】	最新・介護福祉士養成講座 12「発達と老化の理解」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】	・試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合して評価する。			【履修上の注意点】 ・提出期限厳守		

講義名：認知症の理解 I

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
本島信央		手島	開講時期	後期	全回数	15(30時間)
介護福祉士として、福祉施設で15年の実務経験					単位数	2
【概要】 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。						
【学習目標】 医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解する。また、認知症の人の生活及び家族との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につながることに留意する。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	第1章 認知症の基礎的理解 第1節 認知症とは何か	定義と診断基準、初期の生活障害			講義	本島
		症状の全体像、認知症の特徴				
2	第2節 脳のしくみ	構造・機能、病理、アルツハイマー型認知症			講義	本島
		脳の構造と症状、意識障害、うつ病の理解、老化と認知症				
3	第3節 認知症の人の心理	不安・喪失感、不安とうつと病識低下			講義	本島
		不安・うつの病態、こころの理解				
4	第2章 認知症の症状・診断・治療・予防 第1節 中核症状の理解	中核症状、記憶・見当識・遂行機能・空間認知・視覚認知障害			講義	本島
		社会脳、失語・失行・失認の症状、病識低下、神経症状				
5	第2節 生活障害の理解	生活障害、IADL・ADL障害			講義	本島
		家庭内での家族との関係、社会参加				
6	第3節 BPSDの理解	定義、要因(背景因子)			講義	本島
		誘因、主要なBPSD				
7	第4節 認知症の診断と重症度	診断			講義	本島
		認知症の重症度判定				
8	第5節 認知症の原因疾患と症状・生活障害	アルツハイマー型、血管性、レビー小体型、前頭側頭型			講義	本島
		治療可能な認知症、若年性認知症、原因疾患の鑑別				
9	第6節 認知症の治療薬 第7節 認知症の予防	神経伝達物質の基礎的理解、アルツハイマー型認知症の治療薬			講義	本島
		BPSD治療薬、予防の考え方、リスクの要因				
10	第4章 認知症ケアの実際 第1節 パーソン・センタード・ケア	パーソン・センタード・ケア			講義	本島
		聞く・集める・見つけるの3つのステップ				
11	第2節 アセスメント・ツール 第3節 認知症の人のコミュニケーション	いろいろなアセスメント・ツール			講義	本島
		コミュニケーションの基本的な理解ほか				
12	第4節 認知症の人へのケア	食事、排泄、入浴、清潔保持			講義	本島
		休息と睡眠、活動・生きがい、BPSDのケア				
13	第5節 認知症の人へのさまざまなアプローチ 第6節 認知症の人の終末期医療と介護	ユマニチュード、バリデーション、ケア・マッピング、回想法			講義	本島
		高齢者の終末期医療、認知症の終末期医療と課題				
14	第7節 環境づくり	認知症と環境、向き合う力、環境的圧力、物理的な環境			講義	本島
		3つの苦難と5つの落差、環境づくり				
15	評価				試験	本島
【教科書】 最新・介護福祉士養成講座 13「認知症の理解」 中央法規出版株式会社						
【参考書】						
【評価方法】 ・試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合して評価する。				【履修上の注意点】 ・提出期限厳守		

講義名：認知症の理解 II

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	2
野口和彦		手島	開講時期	前期	全回数	15(30時間)
介護福祉士として、病院・福祉施設で5年の実務経験					単位数	2
【概要】 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。						
【学習目標】 認知症ケアの歴史や理念を含む、認知症を取りまく社会的環境について理解する。また、認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解する。認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につながることに留意する。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	第3章 障害をかかえて生きることへの支援 第1節 認知症を取り巻く状況(1)	認知症の人の現在とこれから ケアなきケアの時代からの脱却			講義	野口
2	第1節 認知症を取り巻く状況(2)	これからの認知症を取り巻く状況			講義	野口
3	第2節 認知症ケアの理念と視点(1)	理念とは 倫理について			講義	野口
4	第2節 認知症ケアの理念と視点(2)	実践的に理念を考える なぜ理念を重視するのか			講義	野口
5	第2節 認知症ケアの理念と視点(3)	認知症ケアの現状 認知症ケアの視点			講義	野口
6	第2節 認知症ケアの理念と視点(4)	認知症ケアにおけるかかわり 認知症ケアは気づきの連続			講義	野口
7	第3節 認知症当事者の視点からみえるもの(1)	認知症の人の思い 認知症による体験が生活に及ぼす影響			講義	野口
8	第3節 認知症当事者の視点からみえるもの(2)	認知症の人の思いを尊重したサポート方法			講義	野口
9	第5章 介護者支援 第1節 家族への支援(1)	認知症の人の家族を支える視点 認知症の人の家族の心理過程と葛藤			講義	野口
10	第1節 家族への支援(2)	認知症の人の家族へのレスパイトケア 介護福祉職が行う認知症の人の家族への支援			講義	野口
11	第2節 介護福祉職への支援	働きやすい職場環境の整備 ケアモデルを実践するための環境整備			講義	野口
12	第6章 認知症の人の地域生活支援 第1節 制度、サービス、機関、地域づくり(1)	オレンジプランから新オレンジプランへ 認知症の鑑別、診断			講義	野口
13	第1節 制度、サービス、機関、地域づくり(2)	新オレンジプラン 若年性認知症の人への支援、認知症当事者による支援			講義	野口
14	第2節 多職種連携と協働	多職種連携と協働 認知症ライフサポートモデル			講義	野口
15	評価	試験			試験	野口
【教科書】		最新・介護福祉士養成講座 13「認知症の理解」 中央法規出版株式会社				
【参考書】						
【評価方法】 ・試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合して評価する。			【履修上の注意点】 ・提出期限厳守			

講義名 : 障害の理解 I

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
長嶋善一郎 理学療法士として、病院で16年の実務経験	手島	開講時期	前期	全回数	15(30時間)	
唐橋 紀子 言語聴覚士として、病院で14年の実務経験				単位数	2	
神林千栄 作業療法士として、病院で10年の実務経験						
【概要】 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する。						
【学習目標】 障害のある人を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解する。障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につなげる。障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなげる。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	第1章 障害の概念と障害者福祉の基本理念 第1節 障害の概念	障害のとらえ方、ICIDHからICFへの変遷 障害者の概数、障害者の定義			講義	長嶋
2	第2節 障害者福祉の基本理念(1)	ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン エンパワーメント、ストレンガス			講義	長嶋
3	第2節 障害者福祉の基本理念(2)	国際障害者年、障害者権利条約 アドボカシー			講義	長嶋
4	第2章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I 第1節 障害のある人の心理	人間の欲求、過剰機制 障害受容の過程、心理的支援の方法			講義	長嶋
5	第2節 肢体不自由(1)	肢体不自由とは、障害の種類 障害の原因、身体的特性の理解			講義	長嶋
6	第2節 肢体不自由(2)	障害の原因となるおこな疾患の理解、心理的側面の理解 生活面の理解、障害の特性に応じた支援			講義	長嶋
7	第3節 視覚障害	視覚障害とは、障害の種類、障害の原因 障害の特性の理解、障害の特性に応じた支援			講義	唐橋
8	第4節 聴覚・言語障害	聴覚障害 言語障害			講義	唐橋
9	第5節 重複障害	重複障害とは、障害の原因 障害の種類、重複障害児への支援			講義	神林
10	第6節 内部障害(1)	心臓機能障害、呼吸器機能障害 腎臓機能障害			講義	長嶋
11	第6節 内部障害(2)	膀胱・直腸機能障害、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害 肝臓機能障害			講義	長嶋
12	第7章 重症心身障害	重症心身障害とは、障害の原因と分類 障害の特性の理解、障害の特性に応じた支援			講義	神林
13	第5章 家族への支援 第1節 家族への支援とは	家族に障害のある人がいるということ 障害のある人の家族への支援			講義	神林
14	第2節 家族の介護力の評価と介護負担の軽減	家族の介護力の評価 家族の介護力をふまえた支援			講義	神林
15	評価	試験			試験	長嶋
【教科書】		最新・介護福祉士養成講座 14「障害の理解」 中央法規出版株式会社				
【参考書】						
【評価方法】 出席状況・学習態度・レポート・試験などを総合し、評価する			【履修上の注意点】 ・課題の提出期限を厳守すること ・A4版レポート用紙及び原稿用紙(横書き)を携行すること			

講義名：障害の理解 II

【担当教員】	【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
小林有希	手島	開講時期	後期	全回数	15(30時間)
臨床心理士				単位数	2
【概要】 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する。					
【学習目標】 障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につなげる。障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解する。					
回数	学習の主題	学習課題		方法	担当教員
1	第3章障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ第1節 知的障害(1)	知的障害とは 障害の原因		講義	小林
2	第1節 知的障害(2)	障害の特性に応じた支援 ライフステージに応じたかかわり方		講義	小林
3	第2節 精神障害(1)	精神障害とは 障害の種類		講義	小林
4	第2節 精神障害(2)	障害の特性の理解 障害の特性に応じた支援		講義	小林
5	第3節 高次脳機能障害(1)	高次脳機能障害とは 障害の原因		講義	小林
6	第3節 高次脳機能障害(2)	障害の特性の理解 障害の特性に応じた支援		講義	小林
7	第4節 発達障害(1)	発達障害とは 障害ごとの特性の理解		講義	小林
8	第4節 発達障害(2)	生活の特性と生活支援 保護者への支援、支援機関		講義	小林
9	第5節 難病(1)	難病とは おもな難病の理解		講義	小林
10	第5節 難病(2)	難病の特性の理解 難病の特性に応じた支援		講義	小林
11	第4章 連携と協働 第1節 地域のサポート体制(1)	地域サポート体制、障害福祉サービスの提供のしくみ 相談支援事業等との連携		講義	小林
12	第1節 地域のサポート体制(2)	基幹相談支援センターとの連携 協議会との連携、地域生活支援拠点との連携		講義	小林
13	第2節 チームアプローチ(1)	チームアプローチとは、チームづくりの方法 コンフリクト		講義	小林
14	第2節 チームアプローチ(2)	合意をめざすための対応 保健医療関係職種の業務、演習4-1、演習4-2		講義	小林
15	評価	試験		試験	小林
【教科書】	新・介護福祉士養成講座 13「障害の理解」 中央法規出版株式会社				
【参考書】					
【評価方法】	・出席状況・学習態度・レポート・試験などを総合し評価する		【履修上の注意点】 ・課題の提出期限を厳守すること ・A4版のレポート用紙及び原稿用紙(横書き)を携行すること		

講義名：こころとからだのしくみ II

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
手島きよ(専任教員)		手島	開講時期	前期	全回数	15(30時間)
看護師として、病院で33年の実務経験					単位数	2
【概要】 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。						
【学習目標】 生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	第3章 移動に関連したこころとからだのしくみ 第1節 移動のしくみ(1)	なぜ移動をするのか 基本的な姿勢			講義	手島
2	第1節 移動のしくみ(2)	ボディメカニクス 移動に関連したところのしくみ			講義	手島
3	第1節 移動のしくみ(3)	移動に関連したからだのしくみ 演習3-1(安定した姿勢)			講義	手島
4	第2章 心身の機能低下が移動に及ぼす影響	精神機能の低下が移動に及ぼす影響 身体機能の低下が移動に及ぼす影響			講義	手島
5	第3節 変化の気づきと対応	移動での観察ポイント 移動での医療職との連携ポイント			講義	手島
6	第4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第1節 身じたくのしくみ(1)	演習3-1(利用者の変化の気づきと対応) なぜ身じたくを整えるのか			講義	手島
7	第1節 身じたくのしくみ(2)	身じたくに関連したところのしくみ 身じたくに関連したからだのしくみ			講義	手島
8	第1節 身じたくのしくみ(3)	演習4-1(口腔の観察) 演習4-2(口臭の予防と対応)			講義	手島
9	第2節 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響	精神機能の低下が身じたくに及ぼす影響 身体機能の低下が身じたくに及ぼす影響			講義	手島
10	第3節 変化の気づきと対応	身じたくでの観察のポイント 身じたくでの医療職との連携ポイント			講義	手島
11	第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ 第1節 食事のしくみ(1)	なぜ食事をするのか 食事に関連したところのしくみ			講義	手島
12	第1節 食事のしくみ(2)	食事に関連したからだのしくみ 演習5-1(摂食嚥下の5分類と内容)			講義	手島
13	第2節 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響	精神機能の低下が食事に及ぼす影響 身体機能の低下が食事に及ぼす影響			講義	手島
14	第3節 変化の気づきと対応	食事での観察のポイント 食事での医療職との連携のポイント			講義	手島
15	評価	試験			試験	手島
【教科書】	最新・介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】 ・試験、学習態度、出席状況を総合して評価する。			【履修上の注意点】 ・提出期限を厳守すること。			

講義名：こころとからだのしくみ Ⅲ

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
高杉寿江		手島	開講時期	後期	全回数	15(30時間)
看護師として、病院で5年の実務経験					単位数	2
【概要】 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。						
【学習目標】 生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	第6章 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 第1節 入浴・清潔保持のしくみ(1)	なぜ入浴・清潔保持を行うのか			講義	高杉
		入浴・清潔保持に関連したこころのしくみ				
2	第1節 入浴・清潔保持のしくみ(2)	入浴・清潔保持に関連したからだのしくみ			講義	高杉
		演習6-1(入浴の効果)、演習6-2(陰部・肛門の清潔)				
3	第2節 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響	精神機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響			講義	高杉
		身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響、演習6-3				
4	第3節 変化の気づきと対応(1)	入浴が身体に及ぼす負担			講義	高杉
		入浴・清潔保持での観察ポイント				
5	第3節 変化の気づきと対応(2)	入浴・清潔保持での医療職との連携のポイント			講義	高杉
		演習6-4(清潔保持の際の注意点と対応)				
6	第7章 排泄に関連したこころとからだのしくみ 第1節 排泄のしくみ(1)	なぜ排泄をするのか			講義	高杉
		排泄に関連したこころのしくみ				
7	第1節 排泄のしくみ(2)	排泄に関連したからだのしくみ			講義	高杉
		演習7-1、演習7-2				
8	第2節 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響	精神、判断力の低下が排泄に及ぼす影響			講義	高杉
		身体機能の低下が排泄に及ぼす影響、演習7-3、7-4				
9	第3節 変化の気づきと対応	排泄での観察のポイント			講義	高杉
		排泄での医療職との連携のポイント				
10	第8章 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 第1節 休息・睡眠のしくみ(1)	なぜ睡眠をとるのか			講義	高杉
		睡眠のしくみ				
11	第1節 休息・睡眠のしくみ(2)	睡眠の質を高める			講義	高杉
		演習8-1、演習8-2				
12	第2節 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響(1)	休息・睡眠に影響を及ぼす心身機能の低下			講義	高杉
		睡眠障害				
13	第2節 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響(2)	睡眠不足が及ぼす影響			講義	高杉
		演習8-3				
14	第3節 変化に気づくためのポイント	睡眠での観察のポイント、睡眠での医療職との連携のポイント			講義	高杉
		緊急対応が必要な例				
15	評価				試験	高杉
【教科書】	最新・介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】 ・試験、学習態度、出席状況を総合して評価する。			【履修上の注意点】 ・提出期限を厳守すること。			

講義名 : ターミナルケア

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	2
岩 沢 ミワ子		手 島	開講時期	後期	全回数	15(30時間)
看護師として、病院・福祉施設で41年の実務経験					単位数	2
【概要】 看取りの場が家庭から医療の場に移行して久しく、看取りの経験の無い世代が増えている。看取りの場は、看取る者にとっても看取られる者にも生老病死の意味を確かめ、限りあるいのちをみつめる機会でもある。介護福祉士の看取りの介護を事例をととして学ぶとともに、看取りの作法と死別後のグリーフケアを学ぶ。						
【学習目標】 人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する。						
回数	学 習 の 主 題	学 習 課 題			方法	担当教員
1	第9章 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ 第1節 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方(1)	死のとらえ方			講義	岩 沢
		看取りにかかわる人の価値観				
2	第1節 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方(2)	終末期(ターミナル期)			講義	岩 沢
3	第2節 「死」に対するこころの理解(1)	「死」に対するこころの変化			講義	岩 沢
		「死」を受容する段階				
4	第2節 「死」に対するこころの理解(2)	家族が「死」を受容できるための支援			講義	岩 沢
		家族の負担軽減、演習9-1				
5	第3節 終末期から危篤状態、死後のからだの理解(1)	身体機能の特徴			講義	岩 沢
		臨終期の対応				
6	第3節 終末期から危篤状態、死後のからだの理解(2)	死後のからだの変化			講義	岩 沢
		死後の連絡、演習9-2				
7	第4節 終末期における医療職との連携	呼吸困難時の医療と介護の連携			講義	岩 沢
		疼痛緩和時の医療と介護の連携、多職種連携				
8	事例検討(1)	最後は家でと望みながら家族に受け入れられなかった事例			講義	岩 沢
9	事例検討(2)	最期の5日間を病院で過ごすことを選んだ独り住まいの高齢者の事例			講義	岩 沢
10	事例検討(3)	家族から退院を受け入れられずに生きることを放棄した事例			講義	岩 沢
11	事例検討(4)	住み慣れた私の家(施設)で家族に看取られた事例			講義	岩 沢
12	看取りの心得と作法	日本の看取りの心得と作法・死者に対する心得と作法			講義	岩 沢
13	グリーフケア	残された家族への悲嘆のケア			講義	岩 沢
14	葬送儀礼	死後の処置時の儀礼的行為・宗教別儀礼の心得と作法			講義	岩 沢
		死に伴う手続き				
15	評価				試験	岩 沢
【教科書】	最新・介護福祉士養成講座 11「ところとからだのしくみ」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】 ・試験・レポート・授業態度・出席状況を総合して評価する。			【履修上の注意点】 ・演習の授業時ユニフォームを着用し身嗜みを整えて出席のこと。 ・提出物の期限を厳守すること。			

講義名： 介護実習 I

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	1
鈴木 佳代子(専任教員)		鈴木	開講時期	後期	全回数	
介護福祉士として、病院・福祉施設で20年の実務経験					単位数	2
【概要】 個々の生活リズムや個性を理解する観点から、様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者毎に介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの基本となる実践力を習得する。						
【学習目標】 人間関係を形成しながら、慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、その生活を継続させるためには何が必要なのかという個別ケア実践の重要性を学ぶ。実習施設、事業所等の実際を体験し、施設等の機能や基本的ケアを学ぶ。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	実習の内容	オリエンテーション			実習	佐藤
2		施設及び事業所の役割を知る			実習	佐藤
3		施設及び事業所を利用している方の生活を知る			実習	佐藤
4		コミュニケーションをとおして、介護を必要とされる方を知る			実習	佐藤
5		施設・事業所における介護の役割を考える			実習	佐藤
6		指導のもと、基本的な生活援助技術を体験する			実習	佐藤
7		実習記録をとおして、伝わる文章表現を学ぶ			実習	佐藤
8		実習記録をとおして自己に気づく			実習	佐藤
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
【教科書】						
【参考書】						
【評価方法】				【履修上の注意点】		

講義名： 介護実習Ⅱ

【担当教員】		【責任教員】	【対象学科】	【介護福祉科】	【学年】	2
栗城 正子(専任教員)		栗城	開講時期	前期	全回数	
介護福祉士として、福祉施設で14年の実務経験					単位数	3
【概要】 個々の生活リズムや個性を理解する観点から、様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者毎に介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの基本となる実践力を習得する。						
【学習目標】 介護実践のための基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に使う必要があることを学び、実際に施設や事業所のカンファレンス等に参加し、介護する上で必要な他職種の役割について学ぶことで、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。介護過程で学んだ思考のプロセスを利用者を受け持つことにより実践する。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	実習内容	オリエンテーション			実習	栗城
2		実習施設の概要や地域における役割を理解する			実習	栗城
3		実習施設の介護計画に基づいて基本的な生活支援技術を体験する			実習	栗城
4		実習指導者の指導のもと担当ケースを決め、介護過程の展開を体験する			実習	栗城
5		介護過程のアセスメント・計画立案・実施の過程をとおして個別介護を学ぶ			実習	栗城
6		介護の実践における介護計画の立案をとおして他の専門職と介護福祉士がどのように連携しているかを知る			実習	栗城
7		個別介護に実践における多職種の役割を理解し、介護福祉士と多職種との連携のあり方を学ぶ			実習	栗城
8		実習記録をとおして自己に気づく			実習	栗城
9		* 実習期間中に帰校日を設ける				栗城
10						
11						
12						
13						
14						
15						
【教科書】						
【参考書】						
【評価方法】				【履修上の注意点】		

講義名： 介護実習Ⅲ

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	2
佐藤 隆夫(専任教員)		佐藤	開講時期	後期	全回数	
介護福祉士として、福祉施設で5年の実務経験					単位数	5
【概要】 個々の生活リズムや個性を理解する観点から、様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者毎に介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの基本となる実践力を習得する。						
【学習目標】 介護過程で学んだ思考のプロセスを利用者を受け持つことにより実践し、個々の利用者の生活背景やリズムを理解し、必要な情報を収集し、計画立案、実践、評価、修正が行えるようにする。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	実習内容	オリエンテーション			実習	佐藤
2		実習指導者の指導のもと担当ケースの一連の介護過程の展開を体験する			実習	佐藤
3		介護過程の展開をとおして、介護を必要とする方のQOLと個別介護の関係性を体験する			実習	佐藤
4		施設における介護計画立案・実施・評価の過程をケアカンファレンス等をおとして体験する			実習	佐藤
5		チームケアの一員として介護福祉士の専門性を考える			実習	佐藤
6		一連の介護過程の展開やケースカンファレンスをおして自己に気づく			実習	佐藤
7		* 実習期間中に帰校日を設ける			実習	佐藤
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
【教科書】						
【参考書】						
【評価方法】				【履修上の注意点】		

講義名;医療的ケア I NO1(講義)

【担当教員】 手島 きよ(専任教員)		【責任教員】 手島	【対象学科】 介護福祉科	【学年】 通年	【学期】 全年	【単位数】 2
看護師として、病院で33年の実務経験						50
						2
【概要】 介護保険法等の一部改正法により、介護福祉士がその業務として喀痰吸引等を行うことが可能となったため、介護福祉士として必要な、喀痰吸引・経管栄養を中心とした医療的ケアを安全かつ適切に行うための知識、技術を修得する。						
【学習目標】 介護福祉士が安全に医療的ケアを実施するために、必要な基本的な知識を身につけることができる。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
1	人間と社会(1, 5時間)	「個人の尊厳と自立」の意味の理解と実践に向けた心構え			講義	手島
2	保険医療制度とチーム医療 (2時間)	保険医療に関する諸制度 医行為に関する法律とチーム医療喀痰吸引と経管栄養 についての医療職と介護職との連携 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施			講義	手島
3	安全な療養生活(4時間)	安全な療養環境とは リスクマネジメントの考え方と枠組み ヒヤリハットとアクシデント 救急蘇生法について			講義	手島
4・5	清潔保持と感染予防(2, 5時間)	標準予防策(スタンダード・プリコーション) 正しい手洗い法・うがい法・手指消毒法 手袋・マスク・ガウンの装着法 生活環境(居室、トイレ、キッチン)の清潔を保つ方法 汚染物(排泄物、吐瀉物、血液、体液の処理方法) 医療廃棄物の処理方法 消毒と滅菌の違い 滅菌物の取り扱い			講義	手島
6・7	健康状態の把握(3時間)	平常時の健康状態の把握 全身状態の観察法 バイタルサインとその見方 急変状態 急変時の対応と事前準備 (応急処置、記録、報告)			講義	手島
8	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論①	生命維持における呼吸の重要性			講義	手島
	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論②	呼吸のしくみと呼吸気管の名称と機能(換気とガス交換)			講義	手島
9	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概説③	人工呼吸が必要な状態 人工呼吸のしくみ (非侵襲的人工呼吸療法)			講義	手島
	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概説④	喀痰吸引とは 侵襲的人工呼吸療法の場合の気管カニューレ内部の吸引			講義	手島
【教科書】	新・介護福祉士養成講座 15「医療的ケア」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合し評価する。			【履修上の注意点】			

講義名:医療的ケア I NO2(講義)

【担当教員】		責任教員	対象学科	介護福祉科	学年	2
手島 きよ(専任教員)		手島	開講時期	通年	全時間	50
看護師として、病院で33年の実務経験					単位数	(2)
【概要】 介護保険法等の一部改正法により、介護福祉士がその業務として喀痰吸引等を行うことが可能となったため、介護福祉士として必要な、喀痰吸引・経管栄養を中心とした医療的ケアを安全かつ適切に行うための知識、技術を修得する。						
【学習目標】 介護福祉士が安全に医療的ケアを実施するために必要な、基本的な知識を身につけることができる。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
10	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論⑤	人工呼吸器装着者の生活支援上の留意点			講義	手島
		人工呼吸器装着者の呼吸管理に関する医療職との連携				
11	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論⑥	吸引を必要とする子どもとは			講義	手島
		子どもの吸引に使用する物品使用する物品				
11	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論⑦	子どもの吸引の留意点			講義	手島
		利用者と家族のの吸引に対する気持ちの理解				
12	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論⑧	吸引の実施に関する説明と同意実施に関する説明と同意			講義	手島
		12	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論⑨	呼吸器系の感染 病気と症状		
呼吸器系の感染の予防予防 喀痰吸引の危険とその対応						
13	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論⑩	ヒヤリハット・アクシデントの実際と報告・報告書の書き方			講義	手島
		13	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論⑪	急変・事故発生時の対応		
急変・事故発生時の事前対策・医療職との連携体制の確認						
14	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順解説①	吸引の必要物品・吸引器・器具器材のしくみ			講義	手島
		必要物品の清潔保持 消毒液と消毒方法				
14	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順解説②	必要物品の準備・設置と留意点			講義	手島
		吸引の利用者の状態観察 手順と観察				
15	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順解説③	吸引前の利用者の準備と留意点			講義	手島
		吸引の実施手順と留意点				
15	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順解説④	吸引実施に伴う利用者の身体の変化の確認と医療職への報告			講義	手島
		吸引後の片付け方法と留意点				
16	高齢者及び障害児・者「喀痰吸引」実施手順⑤	たんを出しやすくする姿勢(体位)			講義	手島
		口腔内のケア				
17	高齢者及び障害児・者「喀痰吸引」実施手順⑥	医療職への報告と連絡方法			講義	手島
		記録の意義 記録内容、書き方の実際				
17	高齢者及び障害児・者「喀痰吸引」実施手順⑦	医師の指示書の見方と支持者への報告			講義	手島
		【教科書】 新・介護福祉士養成講座 15 「医療的ケア」 中央法規出版株式会社				
【参考書】						
【評価方法】試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合し評価する。			【履修上の注意点】			

講義名;医療的ケア I NO3(講義)

【担当教員】		責任教員	対象学科	介護福祉科	学年	2
手島 きよ(専任教員)		手島	開講時期	通年	全時間	50
看護師として、病院で33年の実務経験					単位数	(2)
【概要】 介護保険法等の一部改正法により、介護福祉士がその業務として喀痰吸引等を行うことが可能となったため、介護福祉士として必要な、喀痰吸引・経管栄養を中心とした医療的ケアを安全かつ適切に行うための知識、技術を修得する。						
【学習目標】 介護福祉士が安全に医療的ケアを実施するために、必要な基本的な知識を身につけることができる。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
18	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論①	消化器系気管のしくみと役割 嚥下のしくみ 主な消化器系気管各部の名称と構造			講義	手島
	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論②	消化吸収について よくある消化器の症状 経管栄養が必要な状態(飲み込みのはたらきが低下している状態)			講義	手島
19	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論③	栄養が不十分と推測される状態 経管栄養のしくみと種類			講義	手島
	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論④	生命維持における栄養・水分摂取・消化機能の重要性 経管栄養で注入する内容 経管栄養実施上の留意点			講義	手島
20	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論⑤	経管栄養を必要とする子ども 子どもの経管栄養に使用する物品・使用法 子どもの経管栄養の留意点			講義	手島
21	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論⑥	経管栄養を行っている利用者の消化器感染と予防 経管栄養を行っている状態の感染予防			講義	手島
22	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論⑦	口腔ケアの重要性 利用者家族の経管栄養に対する気持ち			講義	手島
23	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論⑧	ヒヤリハット・アクシデントの実際と報告と書き方			講義	手島
24	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論⑨	危険防止のための医療職との連携体制(報告、連絡、相談) 緊急を要する状態(症状)			講義	手島
25	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論⑩	急変・事故発生時の対応(報告、連絡網、応急処置、記録) 急変・事故発生時の連携・体制の確認			講義	手島
26	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順解説①	経管栄養のしくみと種類必要物品 必要物品の清潔保持(消毒薬・消毒方法)			講義	手島
27	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順解説②	挿入部の消毒 必要物品の準備・設置・留意点			講義	手島
28	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順③	経管栄養前の利用者の状態観察 呼吸状態・腹部の状態			講義	手島
29	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順④	経管栄養実施手順と留意点 身体変化の確認と医療職への報告			講義	手島
30	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順⑤	経管栄養終了後の片付けと留意点 体位を整える			講義	手島
【教科書】	新・介護福祉士養成講座 15「医療的ケア」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合し手評価する。		【履修上の注意点】				

講義名: 医療的ケア I NO4(講義)

【担当教員】		【責任教員】	対象学科	介護福祉科	学年	2
手島 きよ(専任教員)		手島	開講時期	通年	全時間	50
看護師として、病院で33年の実務経験					単位数	(2)
【概要】 介護保険法の一部回生法により、介護福祉士がその業務として喀痰吸引等を行うことが可能となったため、介護福祉士として必要な喀痰吸引・経管栄養を中心とした医療的ケアを安全かつ適切に行うための知識、技術を修得する。						
【学習目標】 介護福祉士が安全に医療的ケアを実施するために、必要な基本的な知識を身につけることができる。						
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員
31	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順解説⑥	口腔内や鼻のケア 胃ろう部(腸ろう部)のケア 医療職への報告及び連絡方法			講義	手島
32	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順解説⑦	記録の意義と記録内容・書き方 記録の意義と記録内容・書き方			講義	手島
33	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順解説⑧	医師の指示書の見方と実施後の報告			講義	手島
34	まとめ評価	試験			試験	手島
【教科書】	新・介護福祉士養成講座 15「医療的ケア」 中央法規出版株式会社					
【参考書】						
【評価方法】学習態度・出席状況・レポートなどを総合的に評価する。			【履修上の注意点】			

講義名 ; 医療的ケアⅡ NO5(演習)

	【担当教員】 手島 きよ(専任教員) 看護師として、病院で33年の実務経験	【責任教員】 手島	【対象学科】 介護福祉科	【介護福祉科】 通年	【学年】 2	【全回数】 10	【単位数】 1
【概要】 介護保険法等の一部改正法により、介護福祉士がその業務として喀痰吸引を行うことが可能となったため、介護福祉士として必要な、喀痰吸引・経管栄養を中心とした医療的ケアを安全かつ適切に行うための知識、技術を修得する。							
【学習目標】 介護福祉士が安全に医療的ケアを実施するために、必要な基本的な知識を身につけることができる。							
回数	学習の主題	学習課題			方法	担当教員	
1	「救急蘇生法実施の手引き」2時間	救急蘇生法 1回以上 安全確認、安全確保、安全な環境づくり 意識状態を観察できる (全身観察、呼びかけによる反応確認、軽度の刺激による反応確認) 救援体制を整えるために、応援を求めることができる。 (119番通報、AEDの搬送依頼、119通報の必要事項) 呼吸の確認がすばやくでき、心肺蘇生の必要性の判断ができる。 (呼吸の確認は10秒以上かけない) 呼吸がない場合は、直ちに基本的な胸骨圧迫から実施できる。 (正しい胸骨圧迫、位置、強さ、速さ) 基本的な気道確保ができる (気道確保、気道閉鎖の予防) 基本的な人工呼吸ができる 一連の救急蘇生法(胸骨圧迫30回、気道確保、人工呼吸2回の継続) AEDの基本操作ができる (AEDの操作、AEDと心肺蘇生法の繰り返し)			実技演習	手島・講師	
2	喀痰吸引の手技実際(口腔内)2時間	5回以上の実施			実技演習	手島	
3	喀痰吸引の手技実際(鼻腔内)2時間	5回以上の実施			実技演習		
4	喀痰吸引の手技実際(気管カニューレ内)2時間	5回以上の実施			実技演習		
5	経鼻経管栄養法の手技の実際 2時間 (胃ろう・腸ろう含む)	5回以上の実施			実技演習		
【教科書】	最新介護福祉全書13 医療的ケア(メジカルフレンド社) (DVD付き)						
【参考書】							
【評価方法】	試験・学習態度・出席状況・レポートなどを総合的に評価する。			【履修上の注意点】			